資料番号：PS-10-12 改1

2018年 3月5日

日本原子力発電株式会社

東海第二発電所「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」に係る入力データの適正化及び対策方針への影響確認について

１．概要

東海第二発電所技術的能力まとめ資料1.0.2「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」（以下「本審査資料」という。）において，アクセスルートへの対策要否に係る評価等を実施している。

今般，「燃料有効長（ＴＡＦ）誤り」（以下，「ＴＡＦ誤り」という。）及び「東海第二発電所「可搬型重大事故等対処設備保管場所及びアクセスルートについて」におけるアクセスルートの対策実施箇所の修正について」（以下，「アクセスルートの対策実施箇所の修正」という。）の水平展開として実施した本審査資料に係る確認により，段差量評価に用いた建物等の路面高等の一部に本来の数値等と異なる箇所があり，適正化が必要となることを発見した。入力値の適正化を踏まえて再評価及び対策方針への影響確認を行った結果，評価結果の数値等の記載の適正化は必要であるものの，従来の対策方針に変更はない。（添付１）

なお，当該段差量の評価は，設置変更許可申請書の記載事項ではないが，2017年10月17日の審査会合においてパワーポイント資料を用いて説明したものである。

２．アクセスルートの評価における数値の適正化

「ＴＡＦ誤り」の水平展開として本審査資料を確認した結果，各建屋周囲の埋戻部の沈下量の算出とそれに基づくアクセスルートへの対策要否に係る評価において，2つの事象（下記(1)及び(2)参照）で，建屋等が設置されている地盤標高（路面高）等の一部に入力値を適正化する必要があることを確認した。

また，「アクセスルートの対策実施箇所の修正」の水平展開として本審査資料を確認した結果，1 つの事象（下記(3)参照）で，計算シートの入力の一部に本来の数式と異なる箇所を発見した。

さらに，上記の数値の入力の適正化に加え，設計の進捗等に伴って変更した数値を反映した（下記(4)参照）。

なお，下記(1)～(3)における水平展開は，品質保証担当の指導のもと不適合処理の一環として実施している。

(1)建屋等の設置されている地盤標高（路面高）の適正化…添付２

①調査結果

本資料のうち，[redacted]は商業機密又は核物質防護上の観点から公開できません。

本来はT.P.+11.0m等とすべきところをT.P.+8.0mと入力していることを竣工図等により確認した。

②原因

標高値の入力は平面図を参照しながら行ったが，平面図は標高の記載が十分でないことから，大部分のアクセスルートが分布するT.P.+8m地盤と同一の標高と誤認したためである。標高値の入力データは，標高の十分な記載がされている竣工図，メーカ図書や現地確認データ等の標高値の信頼性の高い情報を用いて入力すべきであった。

②対策（本審査資料の記載の適正化）

本審査資料における上記データを適正化する。

③水平展開

ＴＡＦ誤りの水平展開として，本審査資料に対し，竣工図，メーカ図書，現地確認データ等の信頼性の高い情報による数値の根拠の確認により，記載されている数値が正しいことの確認が実施されており，水平展開は実施済みである。

(2)掘削範囲の評価の入力値の適正化…添付３

①調査結果

埋戻部の範囲を評価するための掘削範囲について，タービン建屋の掘削範囲が本来の範囲と異なっていることを他の竣工図にて確認した。

②原因

タービン建屋の掘削範囲の入力にあたって，掘削形状の平面を示す竣工図から掘削範囲の寸法の値を読み取ったが，この竣工図の当該値を示す範囲の記述が不明瞭であったため，当該値がタービン建屋の掘削範囲の部分的な寸法値であることが分からなかった。入力データを掘削形状の断面を示す他の竣工図で確認したところ，当該値が本来の値ではないことを確認した。

③対策（本審査資料の記載の適正化）

本審査資料における上記データを適正化する。

④水平展開

ＴＡＦ誤りの水平展開として，本審査資料に対し，竣工図，メーカ図書，現地確認データ等の信頼性の高い情報による数値の根拠の確認により，記載されている数値が正しいことの確認が実施されており，水平展開は実施済みである。また，念のため，本審査資料における各建屋の埋戻部の評価に用いた入力データについて確認した結果，他の数値については適切に入力されていることを確認した。

(3)浮き上がり評価（計算シートの数式の入力）の適正化…添付４

①調査結果

地中埋設構造物の浮き上がり評価における計算シートを用いた計算に本来の引数（セル）と異なる引数（セル）を使用していることを確認した。

②原因

計算シート等を用いて評価を行った際，入力データのダブルチェックを実施したが，全数確認ではなく抜き取りで実施していたことから，確認に漏れが生じた。

③対策（本審査資料の記載の適正化）

本審査資料における上記データを適正化する。

④水平展開

「アクセスルートの対策実施箇所の修正」の水平展開として，本審査資料に対し，計算シート等を用いて評価を行ったものについて，入力データのダブルチェックを全数確認し，入力データが正しいことの確認が実施されており，水平展開は実施済みである。

(4)設計の進捗等に伴って変更した数値の反映

①建屋の基礎下端の数値の変更の反映…添付５

建屋の基礎下端の標高について，数値の丸め，既往建屋の比較により基礎高さを設定した箇所の数値の精緻化等による変更を反映した。

②構造物等の損壊による屋外アクセスルートへの影響評価の変更反映…添付６

構造物等の損壊による屋外アクセスルートへの影響評価について，アクセスルートに係る設計の進捗や構造物とアクセスルートまでの距離等の数値の精緻化を反映した。

３．入力値の適正化を踏まえた再評価及び対策方針への影響確認

前述のアクセスルートの評価における入力データの適正化を踏まえたアクセスルートの再評価及び対策方針への影響確認を行った。

(1)アクセスルートの段差量評価（地山と埋戻部の境界　建屋）…添付２，３

入力データの適正化により，アクセスルートに想定される段差量（埋戻部の沈下量）を再評価した結果，アクセスルートへの影響があり，かつ埋戻部の沈下量が 15cm 以上として詳細評価が必要となる施設について，新たに No.10 タービン建屋を抽出した。このため，No.10 タービン建屋について詳細評価を行った結果，地山と埋戻部の境界に段差はなく，横断勾配も 2.0%程度であり，可搬型設備の通行に影響はないことを確認した。なお，アクセスルートの当該範囲は地震時に使用しないルートである。

また，それ以外の入力データを適正化した 54 施設については，埋戻部の沈下量の数値等の記載の適正化は必要であるが，アクセスルートの通行に影響はないことを確認している。

以上から，新たな対策が必要な箇所はないことを確認した。

(2) 地中埋設構造物の浮き上がり評価…添付４

入力データの適正化により，地中埋設構造物の浮き上がりについて再評価を行った結果，浮き上がりに対する安全率について数値の記載の適正化は必要なものの，新たに浮き上がり対策が必要な箇所はないことを確認した。

(3) 構造物等の損壊による屋外アクセスルートへの影響評価の変更反映…添付６

構造物等の損壊による屋外アクセスルートへの影響評価について，設計の進捗等の変更を反映し再評価を行った結果，影響評価結果の数値は変わるものの，新たな対策が必要な箇所はないことを確認した。

上記の通り，前述のアクセスルートの評価における入力データの適正化を踏まえたアクセスルートへの対策要否の再評価を行った結果，従来のアクセスルートの対策方針に変更はない。

４．まとめ

「ＴＡＦ誤り」及び「アクセスルートの対策箇所の修正」の水平展開による記載内容の確認の結果，本審査資料において 3 つの事象で入力データを適正化する必要が確認された。設計の進捗等に伴う変更の反映も含め，適正化を踏まえたアクセスルートへの対策要否の再評価を行った結果，いずれも本審査資料について一部の記載の適正化が必要なものの，従来のアクセスルートの対策方針に変更はないことを確認した。

５．添付資料

添付１　「ＴＡＦ誤り」及び「アクセスルートの対策箇所の修正」の水平展開による確認結果

添付２　建屋等の設置されている地盤標高（路面高）の適正化について

添付３　掘削範囲の評価の入力値の適正化について

添付４　浮き上がり評価（計算シートの数式の入力）の適正化について

添付５　建屋の基礎下端の数値の変更反映について

添付６　構造物等の損壊による屋外アクセスルートへの影響評価の変更反映について

以上

「TAF誤り」及び「アクセスルートの対策箇所の修正」の水平展開による確認結果

No	項　目	確認対象の数値	該当項目※1					確認資料等	数値の見直し要否※2	対策方針等の変更要否※2	特記事項
			TAF	①	②	③	④				
はじめに		－									
1	新規制基準への適合状況										
1.1	「実用発電用原子炉及びその附属設備の位置，構造及び設備の基準に関する規則」第四十三条（重大事故等対処設備）	－									
1.2	「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」第五十四条（重大事故等対処設備）	－									
2	保管場所の設定及びアクセスルートの設定の考え方	－									
2.1	概要	・標高	○					・図面	×	×	
2.2	基本方針	－									
2.3	東海第二発電所の特徴	・敷地位置	○					・既許可記載値	×	×	
		・標高	○					・図面	×	×	
		・津波高さ	○					・解析結果	×	×	
2.4	保管場所の設定	・標高	○					・図面	×	×	
2.5	屋外アクセスルートの設定	・標高	○					・図面	×	×	
2.6	屋内アクセスルートの設定	－									
2.7	東海発電所の廃止措置の影響	－									
3	保管場所及びアクセスルートの自然現象等に対する影響評価	－									
3.1	自然現象	－									
3.2	外部人為事象	－									
3.3	屋内外作業に係る成立性評価の概要	・標高	○					・図面	×	×	
		・津波浸水範囲	○					・解析結果	×	×	
4	保管場所の影響評価	－									
4.1	保管場所における主要可搬型設備等	－									
4.2	地震，津波による保管場所への影響評価概要	・標高	○					・図面	×	×	
		・津波浸水範囲	○					・解析結果	×	×	
4.3	地震による保管場所の影響評価	・標高	○					・図面	×	×	
		・送電鉄塔倒壊範囲	○					・図面	×	×	
		・斜面の勾配・高さ	○		○			・図面	×	×	
		・液状化による沈下率	○					・文献	×	×	
		・揺すり込み沈下率					○	・解析結果，計算シート入力値	×	×	
		・地層厚さ	○		○			・地質断面図	×	×	
		・地下水位						・調査結果	×	×	
		・残留変位						・解析結果	×	×	
		・保管エリアの幅	○					・図面	×	×	
		・保管エリアの沈下量・傾斜					○	・計算シート入力値	×	×	
		・鉛直最大応答加速度						・解析結果	×	×	
		・鉛直震度係数					○	・計算シート入力値	×	×	
		・地震時接地圧		○			○	・計算シート入力値	×	×	
5	屋外アクセスルートの評価	－									
5.1	アクセスルートの概要	－									
5.2	地震及び津波時におけるアクセスルートの復旧時間評価	－									
5.3	地震による被害想定の方針，対応方針	－									
5.4	地震時の被害想定	・送電鉄塔倒壊範囲	○					・図面	×	×	
		・可燃物施設内容物の容量	○					・図面	×	×	
		・薬品タンク内容物容量等	○					・図面	×	×	
		・水タンク容量等	○					・図面	×	×	
		・対象物からアクセスルートまでの離隔距離	○					・CAD読み取り値	×	×	
		・標高	○					・図面	×	×	
		・斜面の勾配・高さ	○		○			・図面	×	×	
		・液状化による沈下率	○					・文献	×	×	
		・埋設構造物の路面高	○					・図面	×	×	
		・埋設構造物の下端高さ	○		○			・図面	×	×	
		・埋設構造物の寸法	○	○	○	○		・図面	×	×	
		・埋設構造物の相対沈下量					○	・計算シート入力値	×	×	
		・埋設構造物の浮き上がり評価					○	・計算シート入力値	○	×	添付4参照
		・埋戻部の沈下量評価（埋設構造物）					○	・計算シート入力値	×	×	
		・建屋の路面高	○					・図面	○	×	添付2参照
		・建屋の基礎下端高さ	○		○			・図面，調査結果	○	×	添付5参照
		・建屋の基礎掘削影響範囲	○		○		○	・図面，計算シート入力値	○	×	添付3参照
		・埋戻部の沈下量評価（建屋）					○	・計算シート入力値	○	×	添付2参照
5.5	地震時及び津波時におけるアクセスルートの復旧時間評価結果	・標高	○					・図面	×	×	
		・移動距離	○					・CAD読み取り値	×	×	
		・移動速度，撤去速度，所要時間，累積時間					○	・計算シート入力値	×	×	
5.6	屋外作業の成立性	・アクセスルート復旧時間，作業時間					○	・計算シート入力値	×	×	
6	屋内アクセスルートの評価	－									
6.1	影響評価対象	－									
6.2	評価方法	－									
6.3	現場確認による評価	－									
6.4	屋内作業への影響について	－									
6.5	作業の成立性	・建屋各階の高さ	○					・図面	×	×	
7	発電所構外からの災害対策要員の参集	－									
7.1	災害対策要員の参集の流れ	－									
7.2	参集する災害対策要員	－									

－：該当なし

※1該当項目凡例
TAF：TAF調査関連
①直営にてエビデンス資料の数値を変換して入力（単位換算に限らない）し，評価を行ったもの
②直営にて図面から読み取った断面寸法を使用して評価を行ったもの
③直営にてヒューム管の寸法を使用して評価を行ったもの
④計算シート等を用いて直営で評価を行い，入力データのダブルチェックを抜き取りで実施したもの

※2　○：要，×：否

「TAF誤り」及び「アクセスルートの対策箇所の修正」の水平展開による確認結果

No	項　目	確認対象の数値	該当項目※1 TAF	①	②	③	④	確認資料等	数値の見直し要否※2	対策方針等の変更要否※2	特記事項
別紙											
1	外部事象の抽出について	－									
2	降水に対する影響評価について	－									
3	屋外アクセスルート 除雪時間評価について	・移動距離	○					・CAD読み取り値	×	×	
		・車両仕様	○					・文献	×	×	
		・作業時間，除雪速度，所要時間					○	・計算シート入力値	×	×	
4	屋外アクセスルート 降灰除去時間評価について	・移動距離	○					・CAD読み取り値	×	×	
		・車両仕様	○					・文献	×	×	
		・作業時間，除灰速度，所要時間					○	・計算シート入力値	×	×	
5	可搬型設備の小動物対策について	－									
6	森林火災時における保管場所及びアクセス	－									
7	保管場所及びアクセスルートへの自然現象の重畳による影響について	－									
8	平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震の被害状況について	・過去地震規模	○					・文献	×	×	
9	可搬型設備の接続口の配置及び仕様について	・標高	○					・図面	×	×	
10	淡水及び海水の取水場所について	・タンクローリ給油口位置	○					・文献	×	×	
11	海水取水場所での取水が出来ない場合の代替手段について	・標高	○					・図面	×	×	
12	鉄塔基礎の安定性について	・送電鉄塔現地踏査結果	○					・文献	×	×	
13	崩壊土砂の到達距離について	・崩壊土砂到達距離等	○					・文献	×	×	
14	屋外アクセスルート 現場確認結果について	－									
15	屋外アクセスルート近傍の障害となり得る要因と影響評価について	・構造物高さ	○					・図面	○	×	添付6参照
		・アクセスルート対象距離	○					・CAD読み取り値	○	×	
		・影響評価判定値					○	・計算シート入力値	○	×	
		・東海発電所サービス建屋諸元	○					・図面	×	×	
		・建屋各階の高さ ・廃棄物処理建屋ALCパネル部諸元	○					・図面	×	×	
16	主要な変圧器等の火災について	・変圧器保有油量等	○					・図面	×	×	
		・火炎中心からアクセスルートまでの距離	○					・CAD読み取り値	×	×	
		・可燃物施設影響評価判定値					○	・計算シート入力値	×	×	
17	自衛消防隊による消火活動等について	－									
18	可搬型設備（車両）の走行について	・車両許容水深	○					・文献	×	×	
19	T.P.＋11mエリアの屋外タンク溢水時の影響等について	・標高	○					・図面	×	×	
20	屋外アクセスルート確保の検証について	・標高	○					・図面	×	×	
		・車両仕様	○					・文献	×	×	
21	車両走行性能の検証について	－									
22	屋外アクセスルートにおける地震後の被害想定（一覧）について	－									
23	がれき及び土砂撤去時のホイールローダ作業量及び復旧時間について	・車両仕様	○					・文献	×	×	
		・移動距離	○					・CAD読み取り値	×	×	
		・移動速度，撤去範囲，想定がれき量等					○	・計算シート入力値	×	×	
		・作業量参考値	○					・文献	×	×	
24	屋外アクセスルートの復旧計画について	－									
25	保管場所及び屋外アクセスルート等の点検について	－									
26	防潮堤内他施設等の同時被災時におけるアクセスルートへの影響について	－									
27	資機材設置後の作業成立性について	－									
28	地震による被害想定の方針，対応方針	－									
29	屋外での通信機器通話状況の確認について	－									
30	屋内アクセスルートの設定について	・建屋各階の高さ	○					・図面	×	×	
31	地震随伴火災源の影響評価について	・地震随伴火災源の機器評価結果					○	・計算シート入力値	×	×	
		・建屋各階の高さ	○					・図面確認	×	×	
32	地震随伴内部溢水の影響評価について	・緊急時の被ばく線量制限値	○					・文献	×	×	
33	屋内アクセスルート確認状況（地震時の影響）について	・建屋各階の高さ	○					・図面	×	×	
34	発電所構外からの災害対策要員の参集につい	－									
35	基準津波を超え敷地に遡上する津波に対する対応について	・標高	○					・図面	×	×	
		・敷地浸水深	○					・解析結果	×	×	
36	薬品類の漏えい時に使用する防護具について	－									
37	使用済燃料乾式貯蔵建屋の西側斜面の安定性評価について	・標高、斜面の勾配	○		○			・図面	×	×	
		・すべり安全率						・解析結果	×	×	
38	敷地の地質・地質構造の特徴及び想定されるリスクについて	・地層厚さ	○		○			・調査結果	×	×	
		・傾斜					○	・計算シート入力値	×	×	
39	有効応力解析について	－									
40	保管場所及びアクセスルートにおける相対密度の設定について	・地層厚さ	○		○			・調査結果	×	×	
		・相対密度					○	・試験結果，計算結果	×	×	
41	敷地内の地下水位の設定について	・地下水位						・調査結果	×	×	
		・地下水の流速						・計算結果	×	×	
		・透水係数						・調査結果	×	×	
		・土粒子の比重等						・調査結果	×	×	
		・限界流速					○	・計算シート入力値	×	×	
42	路盤補強（段差緩和対策）について	・標高、長さ、高さ、荷重	○		○			・図面、設計条件	×	×	
		・H鋼の応力評価結果						・計算結果	×	×	
補足説明資料											
1	原子炉建屋内の可搬型重大事故等対処設備の配置について	・建屋各階の高さ	○					・図面	×	×	
2	可搬型代替注水大型ポンプ等使用時におけるホースの配備長さ並びにホースコンテナ及びホース展張車の配備イメージについて	・ホース敷設距離	○					・CAD読み取り値	×	×	
		・ホース必要長さ					○	・計算シート入力値	×	×	
3	アクセスルート復旧時間評価の妥当性について	・標高	○					・図面	×	×	
4	地震時における屋外アクセスルートへの放射線影響について	－									
5	竜巻対策固縛を解除する時間の考慮について	－									
6	重大事故対応時の中央制御室から原子炉棟入口までの移動時間評価	・建屋各階の高さ	○					・図面	×	×	
7	路盤補強の対策箇所について	－									

－：該当なし

※1該当項目凡例
TAF：TAF調査関連
①直営にてエビデンス資料の数値を変換して入力（単位換算に限らない）し，評価を行ったもの
②直営にて図面から読み取った断面寸法を使用して評価を行ったもの
③直営にてヒューム管の寸法を使用して評価を行ったもの
④計算シート等を用いて直営で評価を行い，入力データのダブルチェックを抜き取りで実施したもの

※2　○：要，×：否

建屋の設置されている地盤標高（路面高）の適正化について

建屋周囲の埋戻部の沈下量算出結果（1/2）

＜見直し前＞

：沈下量が15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎※下端	地下水位	掘削形式	アクセスルートへの影響	埋戻部の沈下量
		T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	開削，土留	影響有：×	（cm）
1	機械工作室用ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
2	監視所	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
3	消防自動車車庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
4	H2O2ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
5	機械工作室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
6	屋内開閉所	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
7	パトロール車車庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
8	H2CO2ガスボンベ貯蔵庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
9	主発電機用ガスボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
10	タービン建屋	8.0	-14.9	8.0	開削	○	－
11	原子炉建屋	8.0	-15.0	-15.0	開削	×	23.0
12	サービス建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
13	水電解装置建屋	8.0	6.8	8.0	開削	○	－
14	ベーラー建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
15	サンプルタンク室（R／W）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
16	ヘパフィルター室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
17	マイクロ無線機室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
18	モルタル混練建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
19	廃棄物処理建屋	8.0	-13.2	-13.2	土留	×	21.2
20	排気塔モニター室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
21	機器搬入口建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
22	地下排水上屋（東西）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
23	CO2ボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
24	チェックポイント	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
25	サービス建屋～チェックポイント歩道上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
26	サービス建屋ボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
27	所内ボイラー用ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
28	擁壁①	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
29	別館	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
30	PR第二電気室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
31	給水処理建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
32	固体廃棄物貯蔵庫A棟	8.0	1.6	8.0	開削	×	14.7
33	固体廃棄物貯蔵庫B棟	8.0	2.6	8.0	開削	×	12.5
34	給水加熱器保管庫	5.0	4.0	5.0	開削	○	－
35	取水口電気室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
36	屋外第二電気室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
37	補修装置等保管倉庫	8.0	6.9	8.0	開削	○	－
38	プロパンガスボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
39	機材倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
40	No.1保修用油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
41	No.2保修用油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
42	固体廃棄物作業建屋	8.0	5.0	8.0	土留	×	6.9
43	緊急時対策室建屋	8.0	4.0	8.0	土留	×	9.2
44	事務本館	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
45	原子炉建屋（東海発電所）	8.0	-11.1	8.0	開削	○	－
46	タービンホール（東海発電所）	8.0	0.6	8.0	開削	○	－
47	サービス建屋（東海発電所）	8.0	6.6	8.0	開削	○	－
48	燃料倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
49	工具倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
50	固化処理建屋	8.0	6.7	8.0	開削	○	－
51	サイトバンカー建屋	8.0	2.0	8.0	開削	×	13.8
52	放射性廃液処理施設	8.0	4.0	8.0	開削	○	－
53	地下タンク上屋（東）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
54	地下タンク上屋（西）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
55	使用済燃料貯蔵施設	8.0	6.1	8.0	開削	○	－
56	Hバンカー	8.0	6.1	8.0	開削	○	－
57	黒鉛スリーブ貯蔵庫	8.0	6.1	8.0	開削	○	－
58	燃料スプリッタ貯蔵庫	8.0	6.1	8.0	開削	○	－
59	低放射性固体廃棄物詰ドラム貯蔵庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
60	保修機材倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
61	ボーリングコア倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
62	ランドリー建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
63	再利用物品置場テントNo.4	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
64	再利用物品置場テントNo.5	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
65	再利用物品置場テントNo.6	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
66	ボイラー上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
67	使用済燃料乾式貯蔵建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
68	非常用ディーゼルポンプ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－

※　基礎下端高さは，基礎高さ1m未満の建屋は，基礎高さを１ｍとする。

掘削図の寸法線が不明瞭なため，読取りを間違えた。

添付3

P10の図面により路面高さ8mと判断した。

地下水位（地表面に設定）も路面高に応じて入力した。

凡　例

：TAF誤りの水平展開により判明した適正化する箇所

：設計の進捗等に伴って変更した箇所

＜見直し後＞

：沈下量が15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎※下端	地下水位	掘削形式	アクセスルートへの影響	埋戻部の沈下量
		T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	開削，土留	影響有：×	（cm）
1	機械工作室用ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
2	監視所	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
3	消防自動車車庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
4	H2O2ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
5	機械工作室	8.0	6.3	8.0	開削	○	－
6	屋内開閉所	8.0	6.0	8.0	開削	○	－
7	パトロール車車庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
8	H2CO2ガスボンベ貯蔵庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
9	主発電機用ガスボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
10	タービン建屋	8.0	-14.9	8.0	開削	×	52.7
11	原子炉建屋	8.0	-15.0	-15.0	開削	×	23.0
12	サービス建屋	8.0	6.3	8.0	開削	○	－
13	水電解装置建屋	8.0	6.9	8.0	開削	○	－
14	ベーラー建屋	8.0	4.0	8.0	開削	○	－
15	サンプルタンク室（R／W）	8.0	6.9	8.0	開削	○	－
16	ヘパフィルター室	8.0	4.1	8.0	開削	○	－
17	マイクロ無線機室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
18	モルタル混練建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
19	廃棄物処理建屋	8.0	-13.2	-13.2	土留	×	21.2
20	排気筒モニター室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
21	機器搬入口建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
22	地下排水上屋（東西）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
23	CO2ボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
24	チェックポイント	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
25	サービス建屋～チェックポイント歩道上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
26	サービス建屋ボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
27	所内ボイラー用ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
28	擁壁①	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
29	別館	11.0	9.0	11.0	開削	○	－
30	PR第二電気室	11.0	10.0	11.0	開削	○	－
31	給水処理建屋	11.0	10.0	11.0	開削	○	－
32	固体廃棄物貯蔵庫A棟	8.0	1.6	8.0	開削	×	14.8
33	固体廃棄物貯蔵庫B棟	8.0	2.5	8.0	開削	×	12.7
34	給水加熱器保管庫	5.0	4.0	5.0	開削	○	－
35	取水口電気室	3.0	2.0	3.0	開削	○	－
36	屋外第二電気室	8.0	4.5	8.0	開削	×	8.1
37	補修装置等保管倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
38	プロパンガスボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
39	機材倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
40	No.1保修用油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
41	No.2保修用油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
42	固体廃棄物作業建屋	8.0	5.3	8.0	土留	×	6.3
43	緊急時対策室建屋	8.0	4.1	8.0	土留	×	9.0
44	事務本館	8.0	5.7	8.0	開削	○	－
45	原子炉建屋（東海発電所）	8.0	1.6	8.0	開削	○	－
46	タービンホール（東海発電所）	8.0	0.9	8.0	開削	○	－
47	サービス建屋（東海発電所）	8.0	6.6	8.0	開削	○	－
48	燃料倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
49	工具倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
50	固化処理建屋	8.0	5.7	8.0	開削	○	－
51	サイトバンカー建屋	8.0	1.9	8.0	開削	×	14.1
52	放射性廃液処理施設	8.0	2.9	8.0	開削	○	－
53	地下タンク上屋（東）	8.0	－	－	－	○	－
54	地下タンク上屋（西）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
55	使用済燃料貯蔵施設	8.0	6.1	8.0	開削	○	－
56	Hバンカー	8.0	6.2	8.0	開削	○	－
57	黒鉛スリーブ貯蔵庫	8.0	6.2	8.0	開削	○	－
58	燃料スプリッタ貯蔵庫	8.0	6.2	8.0	開削	○	－
59	低放射性固体廃棄物詰ドラム貯蔵庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
60	保修機材倉庫	8.0	6.8	8.0	開削	○	－
61	ボーリングコア倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
62	ランドリー建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
63	再利用物品置場テントNo.4	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
64	再利用物品置場テントNo.5	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
65	再利用物品置場テントNo.6	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
66	ボイラー上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
67	使用済燃料乾式貯蔵建屋	8.0	5.8	8.0	開削	○	－
68	非常用ディーゼルポンプ室	8.0	－	－	－	○	－

※　基礎下端高さは，基礎高さ1m未満の建屋は，基礎高さを１ｍとする。

建屋の設置されている地盤標高（路面高）の適正化について

建屋周囲の埋戻部の沈下量算出結果(2/2)

＜見直し前＞

：沈下量が15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎下端	地下水位	掘削形式	アクセスルートへの影響	埋戻部の沈下量
		T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	開削，土留	影響有：×	（cm）
69	C.W.P制御盤室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
70	油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
71	配電設備室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
72	水処理倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
73	資料2号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
74	資料5号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
75	資料4号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
76	擁壁②	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
77	常設代替高圧電源装置	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
78	排水処理建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
79	送水ポンプ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
80	受水槽量水器小屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
81	加圧式空気圧縮機小屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
82	飲料水ポンプ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
83	空気圧縮機室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
84	ホットワークショップ	8.0	5.0	8.0	開削	○	－
85	屋外タンク上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
86	飲料水次亜鉛滅菌装置室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
87	緊急時対策所建屋	23.0	22.0	23.0	開削	○	－
88	原子力館	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
89	正門監視所	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
90	放管センター	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
A	275kV送電鉄塔（No.1）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
B	154kV・66kV送電鉄塔（No.6）	20.0	19.0	20.0	開削	○	－
C	154kV・66kV送電鉄塔（No.7）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
D	154kV・66kV送電鉄塔（No.8）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
E	多目的タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
F	純水貯蔵タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
G	ろ過水貯蔵タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
H	原水タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
I	溶融炉苛性ソーダタンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
J	溶融炉アンモニアタンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
K	主要変圧器	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
L	所内変圧器	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
M	起動変圧器	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
N	予備変圧器	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
O	廃棄物処理建屋 換気空調ダクト	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
P	排気筒	8.0	4.5	8.0	土留	○	－
Q	排気筒（東海発電所）	8.0	4.5	8.0	開削	○	－
R	No.1所内トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
S	No.1主トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
T	No.2主トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
U	No.2所内トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
V	600t純水タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－

※　基礎下端高さは，基礎高さ1m未満の建屋は，基礎高さを１ｍとする。

P10の図面により路面高さ8mと判断した。

Bについては，緊急時対策所建屋付近であることから20mと判断した。

地下水位（地表面に設定）も路面高に応じて入力した。

＜見直し後＞

：沈下量が15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎下端	地下水位	掘削形式	アクセスルートへの影響	埋戻部の沈下量
		T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	開削，土留	影響有：×	（cm）
69	C.W.P制御盤室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
70	油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
71	配電設備室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
72	水処理倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
73	資料2号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
74	資料5号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
75	資料4号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
76	擁壁②	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
77	常設代替高圧電源装置	11.0	-24.0	11.0	土留	－	－
78	排水処理建屋	11.0	8.4	11.0	開削	○	－
79	送水ポンプ室	11.0	10.0	11.0	開削	○	－
80	受水槽量水器小屋	11.0	6.4	11.0	開削	○	－
81	加圧式空気圧縮機小屋	11.0	10.0	11.0	開削	○	－
82	飲料水ポンプ室	11.0	10.0	11.0	開削	○	－
83	空気圧縮機室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
84	ホットワークショップ	8.0	4.5	8.0	開削	○	－
85	屋外タンク上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
86	飲料水次亜鉛滅菌装置室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
87	緊急時対策所建屋	23.0	20.8	23.0	開削	－	－
88	原子力館	8.0	6.8	8.0	開削	○	－
89	正門監視所	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
90	放管センター	8.0	6.2	8.0	開削	○	－
A	275kV送電鉄塔（No.1）	8.0	2.7	8.0	開削	○	－
B	154kV・66kV送電鉄塔（No.6）	16.4	13.6	16.4	開削	○	－
C	154kV・66kV送電鉄塔（No.7）	18.6	14.3	18.6	開削	○	－
D	154kV・66kV送電鉄塔（No.8）	14.1	9.9	14.1	開削	○	－
E	多目的タンク	11.0	10.0	11.0	開削	○	－
F	純水貯蔵タンク	11.0	10.0	11.0	開削	○	－
G	ろ過水貯蔵タンク	11.0	10.0	11.0	開削	○	－
H	原水タンク	11.0	10.0	11.0	開削	○	－
I	溶融炉苛性ソーダタンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
J	溶融炉アンモニアタンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
K	主要変圧器	8.0	3.5	8.0	開削	○	－
L	所内変圧器	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
M	起動変圧器	8.0	4.0	8.0	開削	○	－
N	予備変圧器	8.0	4.0	8.0	開削	○	－
O	廃棄物処理建屋 換気空調ダクト	－	－	－	－	－	－
P	主排気ダクト	－	－	－	－	－	－
Q	排気筒	8.0	4.5	8.0	土留	○	－
R	排気筒（東海発電所）	－	－	－	－	－	－
S	No.1所内トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
T	No.1主トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
U	No.2主トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
V	No.2所内トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
W	600t純水タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
X	154kV引留鉄構	11.0	9.7	11.0	開削	○	－

※　基礎下端高さは，基礎高さ1m未満の建屋は，基礎高さを１ｍとする。

凡　例

：TAF誤りの水平展開により判明した適正化する箇所

：設計の進捗等に伴って変更した箇所

路面高の誤りに対する標高値妥当性確認方法について

- 下図等を基に，各建屋の路面高を確認した。

掘削範囲の評価の入力値の適正化について

- TAF誤りの水平展開により判明した，№10 東2タービン建屋の掘削範囲の誤りについて，適正化を実施した。
- この結果，新たに№10 東2タービン建屋の詳細評価が必要となった。
- なお，建屋等の基礎下端の数値の変更に伴う再評価を反映した。（添付5）

＜見直し前＞

＜見直し後＞

掘削範囲の評価の入力値の適正化について

掘削範囲に係る図面判読の誤りについて

- タービン建屋の掘削範囲の入力にあたって，掘削形状の平面を示す竣工図から掘削範囲の寸法の値を読み取ったが，この竣工図の当該値を示す範囲の記述が不明瞭であったため，当該値がタービン建屋の掘削範囲の部分的な寸法値であることが分からなかった。

赤枠の値を青線の値として
入力していた。

掘削範囲に係る図面判読の誤りについて（寸法の妥当性の確認）

- 前述の竣工図（平面図）の寸法線が不明瞭であったことから，別の竣工図（断面図：右図）で数値を確認した。

掘削範囲の確認方法について(1/2)

- アクセスルートの評価において，掘削範囲がアクセスルートに重なるか判定を行うため，掘削図にて確認した掘削範囲(掘削幅)を平面図に作図する。また，掘削範囲の入力については，以下の方法により，平面図に正しく作図されていることを確認した。

掘削範囲の確認方法について(2/2)

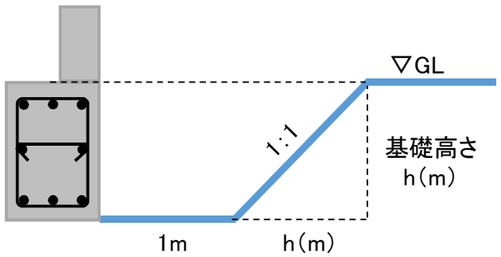
作図の手順2　手順1で算定した掘削幅に応じてCAD図に掘削範囲を作図する。

［確認方法］ 手順2で作図した掘削範囲の寸法が正しいか，作図者以外の者が寸法計測を行う。

掘削図がない建屋の掘削範囲の設定について

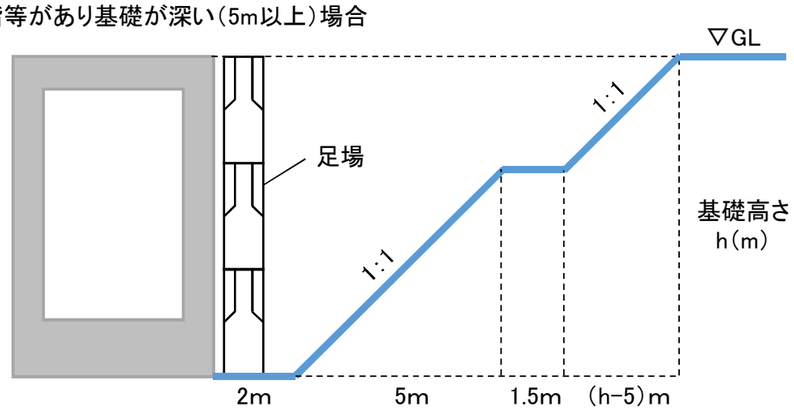
- 掘削図がない建屋の掘削範囲は，下図の考え方に基づき設定した。
- 下図の考え方に基づき設定した掘削範囲（掘削幅）の一覧を下表に示す。

タイプ①
ベタ基礎、布基礎で基礎が浅い場合（5m以下）



掘削幅（m）＝1+h

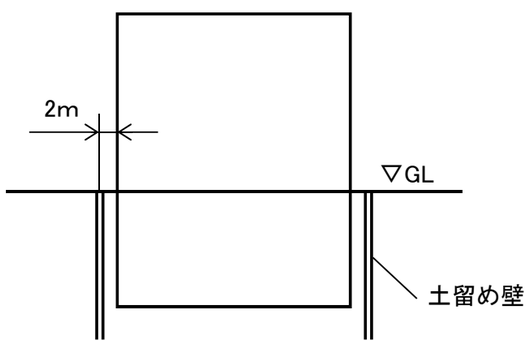
タイプ②
地下階等があり基礎が深い（5m以上）場合



掘削幅（m）＝2+5+1.5+（h−5）

タイプ③　土留め壁の場合

No.19　増強廃棄物処理建屋の地中連続壁の施工事例より建屋からの離れ：2m と設定



No.	建屋名	路面高 T.P.+(m)	基礎下端 T.P.+(m)	基礎高さ(m)	掘削幅根拠	掘削幅(m)
6	屋内開閉所	8.0	6.0	2.0	タイプ①	3.0
10	タービン建屋	8.0	−14.9	22.9	掘削図による	炉心を起点に N164.45、S80 E82.25、W82.25
11	原子炉建屋	8.0	−15.0	23.0	掘削図による	
13	水電解装置建屋	8.0	6.9	1.1	タイプ①	2.1
19	廃棄物処理建屋	8.0	−13.2	21.2	タイプ③	2.0
29	別館	11.0	9.0	2.0	タイプ①	3.0
32	固体廃棄物貯蔵庫A棟	8.0	1.6	6.4	掘削図による	9.62
33	固体廃棄物貯蔵庫B棟	8.0	2.5	5.5	掘削図による	9.52
36	屋外第二電気室	8.0	4.5	3.5	タイプ①	4.5
42	固体廃棄物作業建屋	8.0	5.3	2.7	タイプ③	2.0
43	緊急時対策室建屋	8.0	4.1	3.9	タイプ③	2.0
44	事務本館	8.0	5.7	2.3	タイプ①	3.3
45	原子炉建屋（東海発電所）	8.0	1.6	6.4	施工記録による	14.8
46	タービンホール（東海発電所）	8.0	0.9	7.1	タイプ②	10.6
47	サービス建屋（東海発電所）	8.0	6.6	1.4	タイプ①	2.4
50	固化処理建屋	8.0	5.7	2.3	タイプ①	3.3
51	サイトバンカー建屋	8.0	1.9	6.1	タイプ②	9.6
52	放射性廃液処理施設	8.0	2.9	5.1	タイプ②	8.6
55	使用済燃料貯蔵施設	8.0	6.1	1.9	タイプ①	2.9
56	Hバンカー	8.0	6.2	1.8	タイプ①	2.8
57	黒鉛スリーブ貯蔵庫	8.0	6.2	1.8	タイプ①	2.8
58	燃料スプリッタ貯蔵庫	8.0	6.2	1.8	タイプ①	2.8
60	保修機材倉庫	8.0	6.8	1.2	タイプ①	2.2
67	使用済燃料乾式貯蔵建屋	8.0	5.8	2.2	タイプ①	3.2
78	排水処理建屋	11.0	8.4	2.6	タイプ①	3.6
80	受水槽量水器小屋	11.0	6.4	4.6	タイプ①	5.6
84	ホットワークショップ	8.0	4.5	3.5	タイプ①	4.5
88	原子力館	8.0	6.8	1.2	タイプ①	2.2
90	放管センター	8.0	6.2	1.8	タイプ①	2.8
A	275kV送電鉄塔（No.1）	8.0	2.7	5.3	タイプ②	8.8
B	154kV・66kV送電鉄塔（No.6）	16.4	13.6	2.8	タイプ①	3.8
C	154kV・66kV送電鉄塔（No.7）	18.6	14.3	4.3	タイプ①	5.3
D	154kV・66kV送電鉄塔（No.8）	14.1	9.9	4.2	タイプ①	5.2
Q	排気筒	8.0	4.5	3.5	タイプ③	2.0

基礎高さが1mを超える基礎について掘削幅を抽出。

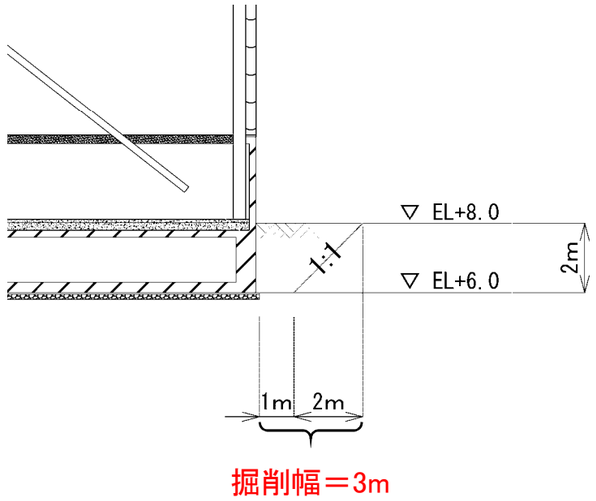
［確認方法］
計算が正しいか作成者以外の者が確認する。

掘削範囲の確認方法（掘削図がない建屋）について

- アクセスルートの評価において，掘削範囲がアクセスルートに重なるか判定を行うため，前頁で確認した掘削範囲（掘削幅）を平面図に作図する。
  また，掘削範囲の入力については，以下の方法により，平面図に正しく作図されていることを確認した。
- 掘削図がない建屋の掘削範囲の確認方法について，以下に例示する。

No.6　屋内開閉所（開削）の例

作図の手順1　P15の方法により掘削範囲（掘削幅）を算定する。



掘削幅算定のモデル図（前頁の考え方）

［確認方法］　手順2で作図した掘削範囲の寸法が正しいか，作図者以外の者が寸法計測を行う。

作図の手順2　手順1で算定した掘削幅に応じてCAD図に掘削範囲を作図する。

掘削範囲の確認方法について

№19　増強廃棄物処理建屋（土留）の例

作図の手順1　P15のタイプ③に基づき掘削幅を2mとする。

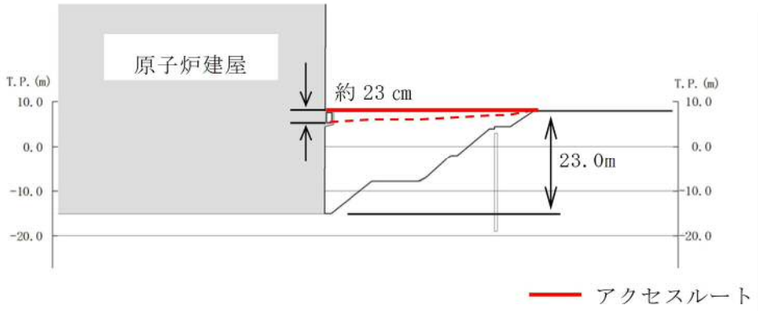
作図の手順2　CAD図に掘削範囲を作図する。

［確認方法］　手順2で作図した掘削範囲の寸法が正しいか，作図者以外の者が寸法計測を行う。

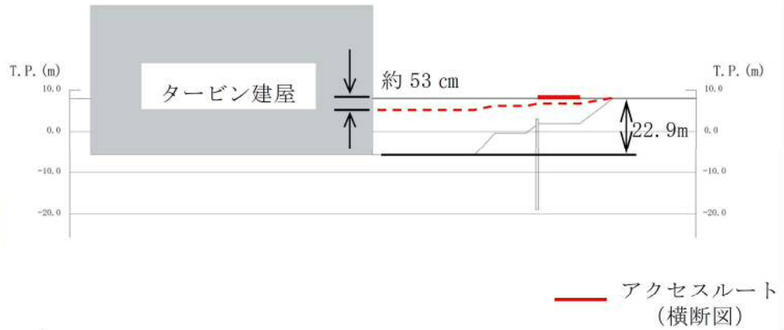
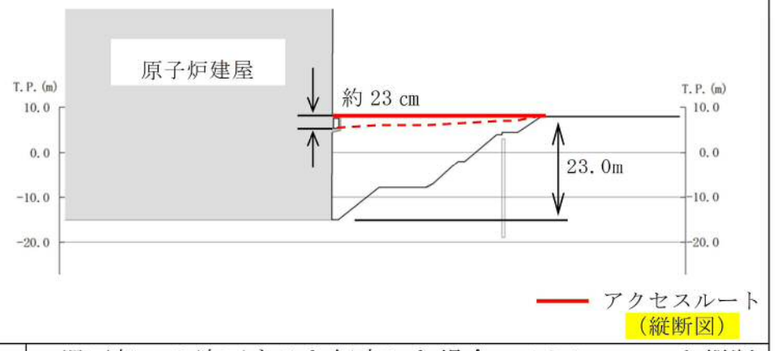
掘削範囲の評価の入力値の適正化について

地山と埋戻部との境界部の評価結果(1/2)

＜見直し前＞

建屋	地山と埋戻部との境界部の評価結果	
	――	
No. 11 原子炉建屋		
	評価結果	・埋戻部のみ沈下すると仮定した場合，アクセスルート縦断方向に約 23 cmの沈下が想定されるが，掘削ラインに応じて沈下するため地山と埋戻部の境界に段差はなく，縦断勾配も1.0%未満であり，可搬型設備の通行に影響はない。

＜見直し後＞

建屋	地山と埋戻部との境界部の評価結果	
No. 10 タービン建屋		
	評価結果	・埋戻部のみ沈下すると仮定した場合，アクセスルート横断方向に約 53 cmの沈下が想定されるが，掘削ラインに応じて沈下するため地山と埋戻部の境界に段差はなく，横断勾配も2.0%程度であり，可搬型設備の通行に影響はない。なお，当該アクセスルートは地震時に使用しないルートである。
No. 11 原子炉建屋		
	評価結果	・埋戻部のみ沈下すると仮定した場合，アクセスルート縦断方向に約 23 cmの沈下が想定されるが，掘削ラインに応じて沈下するため地山と埋戻部の境界に段差はなく，縦断勾配も1.0%未満であり，可搬型設備の通行に影響はない。

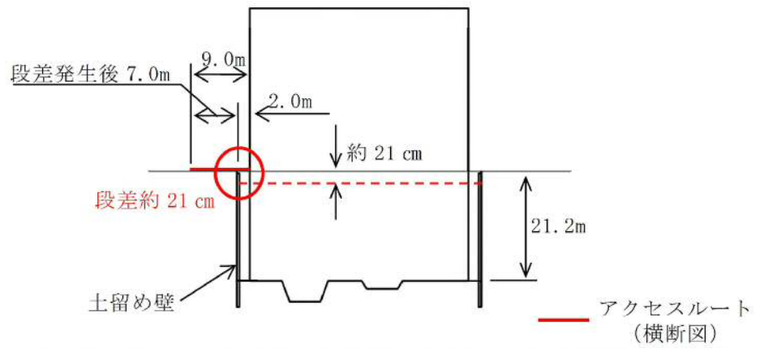
アクセスルートに影響なし

変更なし

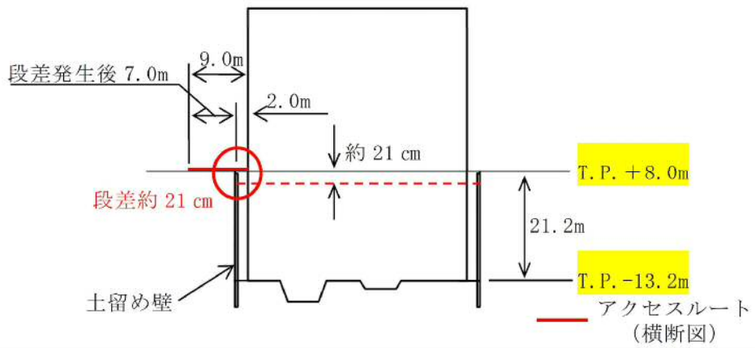
掘削範囲の評価の入力値の適正化について

地山と埋戻部との境界部の評価結果(2/2)

＜見直し前＞

建屋	地山と埋戻部との境界部の評価結果	
No. 19 廃棄物処理建屋		
	評価結果	・埋戻部のみ沈下すると仮定した場合，土留め壁施工箇所は約 21 cmの段差発生が想定されるが，通行に必要な道幅（7m）は確保されるため，可搬型設備の通行に影響はない。

＜見直し後＞

建屋	地山と埋戻部との境界部の評価結果	
No. 19 廃棄物処理建屋		
	評価結果	・埋戻部のみ沈下すると仮定した場合，土留め壁施工箇所は約 21 cmの段差発生が想定されるが，通行に必要な道幅（7m）は確保されるため，可搬型設備の通行に影響はない。

変更なし

浮き上がり評価結果の前後比較（1/2）

＜見直し前＞

：浮き上がりが15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎下端	構造物高	地下水位	揚圧力	浮き上がり抵抗力	安全率	浮き上がり量
		T.P.+（m）	T.P.+（m）	（m）	T.P.+（m）	（kN/m）	（kN/m）		（m）
1	排油配管	8.000	5.410	0.267	8.000	13.4	12.9	0.96	0.10
2	電線管路	8.000	7.230	0.100	8.000	－	－	－	－
3	電線管路	8.000	5.740	0.900	8.000	39.5	27.8	0.71	0.67
4	電線管路	8.000	5.740	0.900	8.000	39.5	27.8	0.71	0.67
5	電線管路	8.000	5.660	0.850	8.000	40.4	29.7	0.73	0.62
6	電線管路	8.000	5.660	0.850	8.000	42.2	30.9	0.73	0.63
7	電線管路	8.000	6.580	0.320	8.000	10.5	20.2	1.94	－
8	電線管路	8.000	6.720	0.160	8.000	6.3	11.9	1.89	－
9	電線管路	8.000	6.840	0.160	8.000	5.5	10.5	1.91	－
10	電線管路	8.000	6.640	0.160	8.000	6.4	11.7	1.82	－
11	電線管路	8.000	6.540	0.160	8.000	6.5	11.3	1.73	－
12	電線管路	8.000	6.540	0.160	8.000	6.5	11.3	1.73	－
13	電線管路	10.000	8.450	0.130	10.000	－	－	－	－
14	電線管路	8.000	7.140	0.100	8.000	－	－	－	－
15	電線管路	8.000	6.480	0.200	8.000	6.6	10.3	1.55	－
16	電線管路	8.000	6.590	0.250	8.000	7.5	12.5	1.67	－
17	電線管路	8.000	6.780	0.100	8.000	－	－	－	－
18	電線管路	8.000	6.830	0.150	8.000	－	－	－	－
19	電線管路	8.000	7.340	0.100	8.000	－	－	－	－
20	電線管路	8.000	6.920	0.140	8.000	－	－	－	－
21	電線管路	8.000	6.870	0.130	8.000	－	－	－	－
22	電線管路	8.000	6.920	0.140	8.000	－	－	－	－
23	電線管路	8.000	6.610	0.130	8.000	－	－	－	－
24	電線管路	8.000	6.570	0.150	8.000	－	－	－	－
25	電線管路	8.000	7.440	0.110	8.000	－	－	－	－
26	電線管路	8.000	7.440	0.110	8.000	－	－	－	－
27	電線管路	8.000	7.440	0.110	8.000	－	－	－	－
28	電線管路	8.000	7.580	0.100	8.000	－	－	－	－
29	電線管路	8.000	7.190	0.110	8.000	－	－	－	－
30	浄化槽配管	8.000	6.300	0.400	8.000	13.5	12.1	0.90	0.17
31	浄化槽配管	8.000	6.300	0.400	8.000	13.5	12.1	0.90	0.17
32	消火配管	8.000	6.335	0.165	8.000	5.3	5.4	1.01	－
33	消火配管	8.000	6.635	0.165	8.000	4.4	4.4	1.01	－
34	消火配管	8.000	6.686	0.114	8.000	－	－	－	－
35	消火配管	8.000	6.886	0.114	8.000	－	－	－	－
36	ろ過水配管	8.000	6.611	0.089	8.000	－	－	－	－
37	ろ過水配管	8.000	6.611	0.089	8.000	－	－	－	－
38	ろ過水配管	8.000	6.482	0.319	8.000	9.4	9.3	0.99	0.02
39	ろ過水配管	8.000	6.935	0.165	8.000	3.4	3.4	1.01	－
40	ろ過水配管	8.000	6.835	0.165	8.000	3.7	3.8	1.01	－
41	ろ過水配管	8.000	6.186	0.114	8.000	－	－	－	－
42	ストームドレン配管	8.000	6.786	0.114	8.000	－	－	－	－
43	ストームドレン配管	8.000	6.786	0.114	8.000	－	－	－	－
44	Ｄ／Ｙドレン配管	8.000	6.586	0.114	8.000	－	－	－	－
45	Ｄ／Ｙドレン配管	8.000	6.586	0.114	8.000	－	－	－	－
46	Ｄ／Ｙドレン配管	8.000	6.586	0.114	8.000	－	－	－	－
47	ＲＨＲＳ配管	8.000	5.387	0.813	8.000	41.2	39.2	0.95	0.13
48	ＯＧ配管	8.000	3.738	0.762	8.000	63.0	57.3	0.91	0.39
49	ＯＧ配管	8.000	4.438	0.762	8.000	52.7	47.0	0.89	0.39
50	ＭＵＷ配管	8.000	6.235	0.165	8.000	5.7	5.7	1.01	－
51	ＭＵＷ配管	8.000	5.835	0.165	8.000	6.9	7.0	1.00	－
52	ＭＵＷ配管	8.000	6.640	0.061	8.000	－	－	－	－
53	ＭＵＷ配管	8.000	5.835	0.165	8.000	6.9	7.0	1.00	－
54	ＤＧＳＷ配管	8.000	4.343	0.457	8.000	32.4	32.2	0.99	0.03
55	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
56	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
57	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
58	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
59	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
60	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
61	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
62	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
63	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
64	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
65	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
66	電気マンホール	10.000	8.360	1.640	10.000	41.4	6.8	0.16	1.37
67	消火系トレンチ	8.000	7.400	0.600	8.000	11.6	3.6	0.31	0.41
68	排水構	8.000	7.400	0.600	8.000	9.3	3.1	0.34	0.40

揚圧力の計算式を誤入力していた。（計算式の対象セルを一列誤った。）

＜見直し後＞

：浮き上がり量が15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎下端	構造物高	地下水位	揚圧力	浮き上がり抵抗力	安全率	浮き上がり量
		T.P.+（m）	T.P.+（m）	（m）	T.P.+（m）	（kN/m）	（kN/m）		（m）
1	排油配管	8.000	5.410	0.267	8.000	13.4	12.9	0.96	0.10
2	電線管路	8.000	7.230	0.100	8.000	－	－	－	－
3	電線管路	8.000	5.740	0.900	8.000	39.5	27.8	0.71	0.67
4	電線管路	8.000	5.740	0.900	8.000	39.5	27.8	0.71	0.67
5	電線管路	8.000	5.660	0.850	8.000	40.4	29.7	0.73	0.62
6	電線管路	8.000	5.660	0.850	8.000	42.2	30.9	0.73	0.63
7	電線管路	8.000	6.580	0.320	8.000	12.1	20.2	1.67	－
8	電線管路	8.000	6.720	0.160	8.000	8.7	11.9	1.37	－
9	電線管路	8.000	6.840	0.160	8.000	7.4	10.5	1.41	－
10	電線管路	8.000	6.640	0.160	8.000	8.7	11.7	1.35	－
11	電線管路	8.000	6.540	0.160	8.000	8.5	11.3	1.33	－
12	電線管路	8.000	6.540	0.160	8.000	8.5	11.3	1.33	－
13	電線管路	10.000	8.450	0.130	10.000	－	－	－	－
14	電線管路	8.000	7.140	0.100	8.000	－	－	－	－
15	電線管路	8.000	6.480	0.200	8.000	7.4	10.3	1.39	－
16	電線管路	8.000	6.590	0.250	8.000	8.2	12.5	1.53	－
17	電線管路	8.000	6.780	0.100	8.000	－	－	－	－
18	電線管路	8.000	6.830	0.150	8.000	－	－	－	－
19	電線管路	8.000	7.340	0.100	8.000	－	－	－	－
20	電線管路	8.000	6.920	0.140	8.000	－	－	－	－
21	電線管路	8.000	6.870	0.130	8.000	－	－	－	－
22	電線管路	8.000	6.920	0.140	8.000	－	－	－	－
23	電線管路	8.000	6.610	0.130	8.000	－	－	－	－
24	電線管路	8.000	6.570	0.150	8.000	－	－	－	－
25	電線管路	8.000	7.440	0.110	8.000	－	－	－	－
26	電線管路	8.000	7.440	0.110	8.000	－	－	－	－
27	電線管路	8.000	7.440	0.110	8.000	－	－	－	－
28	電線管路	8.000	7.580	0.100	8.000	－	－	－	－
29	電線管路	8.000	7.190	0.110	8.000	－	－	－	－
30	浄化槽配管	8.000	6.294	0.400	8.000	13.5	12.1	0.90	0.17
31	浄化槽配管	8.000	6.294	0.400	8.000	13.5	12.1	0.90	0.17
32	消火配管	8.000	6.335	0.165	8.000	5.3	5.4	1.01	－
33	消火配管	8.000	6.635	0.165	8.000	4.4	4.4	1.01	－
34	消火配管	8.000	6.686	0.114	8.000	－	－	－	－
35	消火配管	8.000	6.886	0.114	8.000	－	－	－	－
36	ろ過水配管	8.000	6.611	0.089	8.000	－	－	－	－
37	ろ過水配管	8.000	6.611	0.089	8.000	－	－	－	－
38	ろ過水配管	8.000	6.482	0.319	8.000	9.4	9.3	0.99	0.02
39	ろ過水配管	8.000	6.935	0.165	8.000	3.4	3.4	1.01	－
40	ろ過水配管	8.000	6.835	0.165	8.000	3.7	3.8	1.01	－
41	ろ過水配管	8.000	6.186	0.114	8.000	－	－	－	－
42	ストームドレン配管	8.000	6.786	0.114	8.000	－	－	－	－
43	ストームドレン配管	8.000	6.786	0.114	8.000	－	－	－	－
44	Ｄ／Ｙドレン配管	8.000	6.586	0.114	8.000	－	－	－	－
45	Ｄ／Ｙドレン配管	8.000	6.586	0.114	8.000	－	－	－	－
46	Ｄ／Ｙドレン配管	8.000	6.586	0.114	8.000	－	－	－	－
47	ＲＨＲＳ配管	8.000	5.387	0.813	8.000	41.2	39.2	0.95	0.13
48	ＯＧ配管	8.000	3.738	0.762	8.000	63.0	57.3	0.91	0.39
49	ＯＧ配管	8.000	4.438	0.762	8.000	52.7	47.0	0.89	0.39
50	ＭＵＷ配管	8.000	6.235	0.165	8.000	5.7	5.7	1.01	－
51	ＭＵＷ配管	8.000	5.835	0.165	8.000	6.9	7.0	1.00	－
52	ＭＵＷ配管	8.000	6.640	0.061	8.000	－	－	－	－
53	ＭＵＷ配管	8.000	5.835	0.165	8.000	6.9	7.0	1.00	－
54	ＤＧＳＷ配管	8.000	4.343	0.457	8.000	32.4	32.2	0.99	0.03
55	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
56	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
57	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
58	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
59	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
60	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
61	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
62	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
63	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
64	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
65	ケーブル管路	8.000	6.680	0.120	8.000	－	－	－	－
66	電気マンホール	10.000	8.360	1.640	10.000	41.4	6.8	0.16	1.37
67	消火系トレンチ	8.000	7.400	0.600	8.000	11.6	3.6	0.31	0.41
68	排水溝	8.000	7.400	0.600	8.000	9.3	3.1	0.34	0.40

浮き上がり評価結果の前後比較（2/2）

＜見直し前＞

：浮き上がりが15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎下端	構造物高	地下水位	揚圧力	浮き上がり抵抗力	安全率	浮き上がり量
		T.P.+（m）	T.P.+（m）	（m）	T.P.+（m）	（kN/m）	（kN/m）		（m）
69	原水系，消火系トレンチ	8.000	6.920	1.080	8.000	28.9	5.7	0.20	0.87
70	消火系トレンチ	8.000	7.240	0.760	8.000	14.2	3.9	0.27	0.55
71	電線管トレンチ	8.000	7.660	0.340	8.000	3.0	1.7	0.55	0.15
72	油系トレンチ	8.000	7.270	0.730	8.000	11.3	3.4	0.30	0.51
73	排水枡	8.000	6.900	1.100	8.000	13.4	3.9	0.29	0.78
74	電線管トレンチ	8.000	7.540	0.460	8.000	8.3	3.1	0.37	0.29
75	ろ過水系トレンチ	8.000	7.060	0.940	8.000	19.9	4.6	0.23	0.72
76	消火系トレンチ	8.000	7.290	0.710	8.000	13.8	3.9	0.28	0.51
77	海水系トレンチ	8.000	6.120	1.880	8.000	242.9	20.3	0.08	1.72
78	消火系トレンチ	8.000	7.000	1.000	8.000	23.1	5.0	0.22	0.78
79	消火系トレンチ	8.000	7.250	0.750	8.000	14.4	3.9	0.27	0.55
80	プロパン配管トレンチ	8.000	7.550	0.450	8.000	6.4	2.6	0.41	0.27
81	消火系トレンチ	8.000	6.770	1.230	8.000	23.1	5.0	0.22	0.96
82	排水構	8.000	7.580	0.420	8.000	4.7	2.2	0.46	0.23
83	排水溝	8.000	7.400	0.600	8.000	9.3	3.1	0.34	0.40
84	補助蒸気系トレンチ	8.000	7.540	0.460	8.000	7.5	2.9	0.38	0.28
85	原水系トレンチ	8.000	7.010	0.990	8.000	9.2	3.3	0.36	0.64
86	排水構	8.000	7.710	0.290	8.000	3.0	1.8	0.58	0.12
87	ろ過水系トレンチ	8.000	6.800	1.200	8.000	21.0	4.8	0.23	0.93
88	排水溝	8.000	7.490	0.510	8.000	4.9	2.2	0.44	0.28
89	起動変圧器洞道	8.000	2.950	2.950	8.000	264.5	198.0	0.75	1.27
90	主変圧器洞道	8.000	2.900	3.000	8.000	267.1	222.8	0.83	0.85
91	ＲＨＲＳ配管	8.000	4.200	2.000	8.000	149.8	126.3	0.84	0.60
92	ＲＨＲＳ配管	8.000	4.400	1.800	8.000	127.7	108.6	0.85	0.54
93	ケーブル管路	8.000	5.900	0.900	8.000	91.1	333.3	3.66	－
94	ケーブル管路	8.000	5.900	0.900	8.000	91.1	333.3	3.66	－
95	ケーブル管路	8.000	5.900	0.900	8.000	91.1	333.3	3.66	－
96	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
97	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
98	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
99	補機冷却水管路	8.000	4.780	3.120	8.000	243.6	144.8	0.59	1.31
100	放水路	8.000	-3.100	4.600	8.000	2648.7	2283.7	0.86	1.53
101	放水配管	8.000	1.400	3.200	8.000	416.4	329.7	0.79	1.37
102	放水配管	8.000	1.400	3.200	8.000	416.4	329.7	0.79	1.37
103	放水配管	8.000	1.400	3.200	8.000	416.4	329.7	0.79	1.37
104	補機冷却水管路	8.000	4.780	3.120	8.000	243.6	75.0	0.31	2.23
105	非常用冷却水路	8.000	5.200	2.800	8.000	363.9	97.4	0.27	2.05
106	非常用冷却水路	8.000	5.200	2.800	8.000	363.9	97.4	0.27	2.05
107	電力ケーブル暗渠	8.000	4.550	2.850	8.000	220.9	141.1	0.64	1.25
108	ＲＨＲＳ配管	8.000	2.000	2.000	8.000	193.6	210.2	1.09	－
109	ＲＨＲＳ配管	8.000	2.200	1.800	8.000	170.8	184.1	1.08	－
110	ケーブル管路	8.000	5.900	0.900	8.000	91.1	333.3	3.66	－
111	ケーブル管路	8.000	6.200	0.600	8.000	31.3	83.4	2.66	－
112	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
113	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
114	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
115	ケーブル管路	8.000	5.100	1.300	8.000	137.2	472.1	3.44	－
116	補機冷却水管路	8.000	1.080	3.070	8.000	510.1	409.0	0.80	1.37
117	放水路	8.000	-3.000	4.600	8.000	2624.8	2259.9	0.86	1.53
118	復水器冷却用取水路（東海発電所）	8.000	-7.700	8.500	8.000	2984.9	3128.3	1.05	－
119	一般排水配管	8.000	6.300	0.700	8.000	23.1	18.1	0.78	0.37
120	一般排水配管	8.000	6.400	0.360	8.000	11.2	9.9	0.89	0.18
121	一般排水配管	8.000	6.300	0.470	8.000	15.5	13.3	0.86	0.24
122	一般排水配管	8.000	2.187	0.470	8.000	53.0	50.8	0.96	0.24
123	一般排水配管	8.000	5.276	0.584	8.000	30.9	27.4	0.89	0.31
124	一般排水配管	8.000	3.660	0.700	8.000	58.9	53.9	0.91	0.37
125	予備変圧器洞道	8.000	6.140	0.265	8.000	14.1	13.4	0.95	0.09
126	蒸気系配管	8.000	5.324	0.076	8.000	4.0	4.1	1.03	－
127	電線管路	8.000	6.900	0.300	8.000	11.2	29.0	2.60	－
128	電線管路	8.000	6.230	0.450	8.000	21.4	48.2	2.25	－
129	ＲＨＲＳ配管	8.000	5.500	2.000	8.000	97.0	74.4	0.77	0.58
130	ＲＨＲＳ配管	8.000	5.700	1.800	8.000	80.3	61.9	0.77	0.53
131	ＯＧ配管	8.000	3.784	0.216	8.000	17.7	17.4	0.98	0.07
132	一般排水配管	8.000	6.738	0.360	8.000	8.8	7.6	0.86	0.18
133	一般排水配管	8.000	6.939	0.360	8.000	7.4	6.2	0.83	0.18
134	一般排水配管	8.000	6.942	0.254	8.000	5.2	4.7	0.90	0.11
135	ＯＧ配管	8.000	3.738	0.762	8.000	63.0	57.3	0.91	0.39
136	ＭＵＷ配管	8.000	6.740	0.061	8.000	－	－	－	－
137	ＤＧＳＷ配管	8.000	4.343	0.457	8.000	32.4	32.2	0.99	0.03

揚圧力の計算式を誤入力していた。（計算式の対象セルを一列誤った。）

浮き上がり抵抗力の計算式を誤入力していた。（計算式の対象セルを一列誤った。）

＜見直し後＞

：浮き上がり量が15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎下端	構造物高	地下水位	揚圧力	浮き上がり抵抗力	安全率	浮き上がり量
		T.P.+（m）	T.P.+（m）	（m）	T.P.+（m）	（kN/m）	（kN/m）		（m）
69	原水系，消火系トレンチ	8.000	6.920	1.080	8.000	28.9	5.7	0.20	0.87
70	消火系トレンチ	8.000	7.240	0.760	8.000	14.2	3.9	0.27	0.55
71	電線管トレンチ	8.000	7.660	0.340	8.000	3.0	1.7	0.55	0.15
72	油系トレンチ	8.000	7.270	0.730	8.000	11.3	3.4	0.30	0.51
73	排水枡	8.000	6.900	1.100	8.000	13.4	3.9	0.29	0.78
74	電線管トレンチ	8.000	7.540	0.460	8.000	8.3	3.1	0.37	0.29
75	ろ過水系トレンチ	8.000	7.060	0.940	8.000	19.9	4.6	0.23	0.72
76	消火系トレンチ	8.000	7.290	0.710	8.000	13.8	3.9	0.28	0.51
77	海水系トレンチ	8.000	6.120	1.880	8.000	242.9	20.3	0.08	1.72
78	消火系トレンチ	8.000	7.000	1.000	8.000	23.1	5.0	0.22	0.78
79	消火系トレンチ	8.000	7.250	0.750	8.000	14.4	3.9	0.27	0.55
80	プロパン配管トレンチ	8.000	7.550	0.450	8.000	6.4	2.6	0.41	0.27
81	消火系トレンチ	8.000	6.770	1.230	8.000	23.1	5.0	0.22	0.96
82	排水溝	8.000	7.580	0.420	8.000	4.7	2.2	0.46	0.23
83	排水溝	8.000	7.400	0.600	8.000	9.3	3.1	0.34	0.40
84	補助蒸気系トレンチ	8.000	7.540	0.460	8.000	7.5	2.9	0.38	0.28
85	原水系トレンチ	8.000	7.010	0.990	8.000	9.2	3.3	0.36	0.64
86	排水溝	8.000	7.710	0.290	8.000	3.0	1.8	0.58	0.12
87	ろ過水系トレンチ	8.000	6.800	1.200	8.000	21.0	4.8	0.23	0.93
88	排水溝	8.000	7.490	0.510	8.000	4.9	2.2	0.44	0.28
89	起動変圧器洞道	8.000	2.950	2.950	8.000	264.5	198.0	0.75	1.27
90	主変圧器洞道	8.000	2.900	3.000	8.000	267.1	222.8	0.83	0.85
91	ＲＨＲＳ配管	8.000	4.200	2.000	8.000	149.8	126.3	0.84	0.60
92	ＲＨＲＳ配管	8.000	4.400	1.800	8.000	127.7	108.6	0.85	0.54
93	ケーブル管路	8.000	5.900	0.900	8.000	146.7	333.3	2.27	－
94	ケーブル管路	8.000	5.900	0.900	8.000	146.7	333.3	2.27	－
95	ケーブル管路	8.000	5.900	0.900	8.000	146.7	333.3	2.27	－
96	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
97	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
98	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
99	補機冷却水管路	8.000	4.780	3.120	8.000	243.6	144.8	0.59	1.31
100	放水路	8.000	-3.100	4.600	8.000	2648.7	2283.7	0.86	1.53
101	放水配管	8.000	1.400	3.200	8.000	416.4	329.7	0.79	1.37
102	放水配管	8.000	1.400	3.200	8.000	416.4	329.7	0.79	1.37
103	放水配管	8.000	1.400	3.200	8.000	416.4	329.7	0.79	1.37
104	補機冷却水管路	8.000	4.780	3.120	8.000	243.6	75.0	0.31	2.23
105	非常用冷却水路	8.000	5.200	2.800	8.000	363.9	97.4	0.27	2.05
106	非常用冷却水路	8.000	5.200	2.800	8.000	363.9	97.4	0.27	2.05
107	電力ケーブル暗渠	8.000	4.550	2.850	8.000	220.9	141.1	0.64	1.25
108	ＲＨＲＳ配管	8.000	2.000	2.000	8.000	193.6	210.2	1.09	－
109	ＲＨＲＳ配管	8.000	2.200	1.800	8.000	170.8	184.1	1.08	－
110	ケーブル管路	8.000	5.900	0.900	8.000	146.7	333.3	2.27	－
111	ケーブル管路	8.000	6.200	0.600	8.000	41.9	83.4	1.99	－
112	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
113	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
114	取水配管	8.000	2.400	3.200	8.000	353.3	266.6	0.75	1.37
115	ケーブル管路	8.000	5.100	1.300	8.000	202.5	472.1	2.33	－
116	補機冷却水管路	8.000	1.080	3.070	8.000	510.1	409.0	0.80	1.37
117	放水路	8.000	-3.000	4.600	8.000	2624.8	2259.9	0.86	1.53
118	復水器冷却用取水路（東海発電所）	8.000	-7.700	8.500	8.000	2984.9	3128.3	1.05	－
119	一般排水配管	8.000	6.300	0.700	8.000	23.1	18.1	0.78	0.37
120	一般排水配管	8.000	6.400	0.360	8.000	11.2	9.9	0.89	0.18
121	一般排水配管	8.000	6.300	0.470	8.000	15.5	13.3	0.86	0.24
122	一般排水配管	8.000	2.187	0.470	8.000	53.0	50.8	0.96	0.24
123	一般排水配管	8.000	5.276	0.584	8.000	30.9	27.4	0.89	0.31
124	一般排水配管	8.000	3.660	0.700	8.000	58.9	53.9	0.91	0.37
125	予備変圧器洞道	8.000	6.140	0.265	8.000	14.1	13.4	0.95	0.09
126	蒸気系配管	8.000	5.324	0.076	8.000	4.0	4.0	1.00	－
127	電線管路	8.000	6.900	0.300	8.000	16.0	29.0	1.81	－
128	電線管路	8.000	6.230	0.450	8.000	27.5	48.2	1.75	－
129	ＲＨＲＳ配管	8.000	5.500	2.000	8.000	97.0	74.4	0.77	0.58
130	ＲＨＲＳ配管	8.000	5.700	1.800	8.000	80.3	61.9	0.77	0.53
131	ＯＧ配管	8.000	3.784	0.216	8.000	17.7	17.4	0.98	0.07
132	一般排水配管	8.000	6.738	0.360	8.000	8.8	7.6	0.86	0.18
133	一般排水配管	8.000	6.939	0.360	8.000	7.4	6.2	0.83	0.18
134	一般排水配管	8.000	6.942	0.254	8.000	5.2	4.7	0.90	0.11
135	ＯＧ配管	8.000	3.738	0.762	8.000	63.0	57.3	0.91	0.39
136	ＭＵＷ配管	8.000	6.740	0.061	8.000	－	－	－	－
137	ＤＧＳＷ配管	8.000	4.343	0.457	8.000	32.4	32.2	0.99	0.03

計算式入力誤りの内容と見直し結果の確認方法

①計算式入力誤りの内容

＜評価結果＞

＜計算部＞
揚圧力＝A＋B

No.	名称	路面高	基礎下端	構造物高	地下水位	揚圧力	浮き上がり抵抗力	安全率	浮き上がり量
		T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	（m）	T.P.＋（m）	（kN/m）	（kN/m）		（m）
1	排油配管	8.000	5.410	0.267	8.000	13.4	12.9	0.96	0.10
2	電線管路	8.000	7.230	0.100	8.000	－	－	－	－
3	電線管路	8.000	5.740	0.900	8.000	39.5	27.8	0.71	0.67
4	電線管路	8.000	5.740	0.900	8.000	39.5	27.8	0.71	0.67
5	電線管路	8.000	5.660	0.850	8.000	40.4	29.7	0.73	0.62
6	電線管路	8.000	5.660	0.850	8.000	42.2	30.9	0.73	0.63
7	電線管路	8.000	6.580	0.320	8.000	12.1	20.2	1.67	－
8	電線管路	8.000	6.720	0.160	8.000	8.7	11.9	1.37	－
9	電線管路	8.000	6.840	0.160	8.000	7.4	10.5	1.41	－
10	電線管路	8.000	6.640	0.160	8.000	8.7	11.7	1.35	－
11	電線管路	8.000	6.540	0.160	8.000	8.5	11.3	1.33	－
12	電線管路	8.000	6.540	0.160	8.000	8.5	11.3	1.33	－

●A列の式に誤りがあった

（誤）　①×（水の単位体積重量）×②

（正）　①×（水の単位体積重量）×③

＜計算部＞

No.	名称	外径 種類			外径 幅（m）	外径 高さ（m）	内径 厚さ		内径 幅（m）	内径 高さ（m）	頂部標高 T.P.＋（m）	被り厚さ（m）	地下水位基礎下端までの高さ（m）	上載荷重（kN/m）	躯体荷重（kN/m）	内容物荷重（kN/m）	静水圧による揚圧力（kN/m）	過剰間隙水圧による揚圧力（kN/m）	安全率	安定不足荷重（kN/m）	浮き上り量（m）
					③	②							①				A	B			
1	排油配管	配管	250A	○	0.2674		sch40	0.009	0.2488		5.677	2.323	2.590	12.051	0.878		6.788	6.650	0.962	0.509	0.100
2	電線管路																				
3	電線管路	カルバート		□	0.9000	0.9000	50mm		0.8000	0.8000	6.640	1.360	2.260	23.746	4.080		1[illegible]			[illegible].634	0.670
4	電線管路	カルバート		□	0.9000	0.9000	50mm		0.8000	0.8000	6.640	1.360	2.260	23.746	4.080		1[illegible]			[illegible].634	0.670
5	電線管路	カルバート		□	0.8900	0.8500	50mm		0.7900	0.7500	6.510	1.490	2.340	25.726	3.936		2[illegible]			[illegible].740	0.620
6	電線管路	カルバート		□	0.9300	0.8500	50mm		0.8300	0.7500	6.510	1.490	2.340	26.883	4.032		2[illegible]	20.892	0.732	11.304	0.630
7	電線管路	ケーブル束		■	0.4400	0.3200	－	－	－	－	6.900	1.100	1.420	9.390	10.842		6.123	5.998	1.669		
8	電線管路	ケーブル束		■	0.3500	0.1600	－	－	－	－	6.880	1.120	1.280	7.605	4.312		4.390	4.301	1.371		
9	電線管路	ケーブル束		■	0.3300	0.1600	－	－	－	－	7.000	1.000	1.160	6.402	4.066		3.751	3.675	1.410		
10	電線管路	ケーブル束		■	0.3300	0.1600	－	－	－	－	6.800	1.200	1.360	7.682	4.066		4.398	4.308	1.349		
11	電線管路	ケーブル束		■	0.3000	0.1600	－	－	－	－	6.700	1.300	1.460	7.566	3.696		4.292	4.205	1.325		
12	電線管路	ケーブル束		■	0.3000	0.1600	－	－	－	－	6.700	1.300	1.460	7.566	3.696		4.292	4.205	1.325		

計算式誤入力

②見直し結果の確認方法

計算式誤入力箇所の見直しを行った後、Excelデータの数式表示機能により各セルの計算式を表示した帳票により，全ての式の内容について，ダブルチェックを実施した。

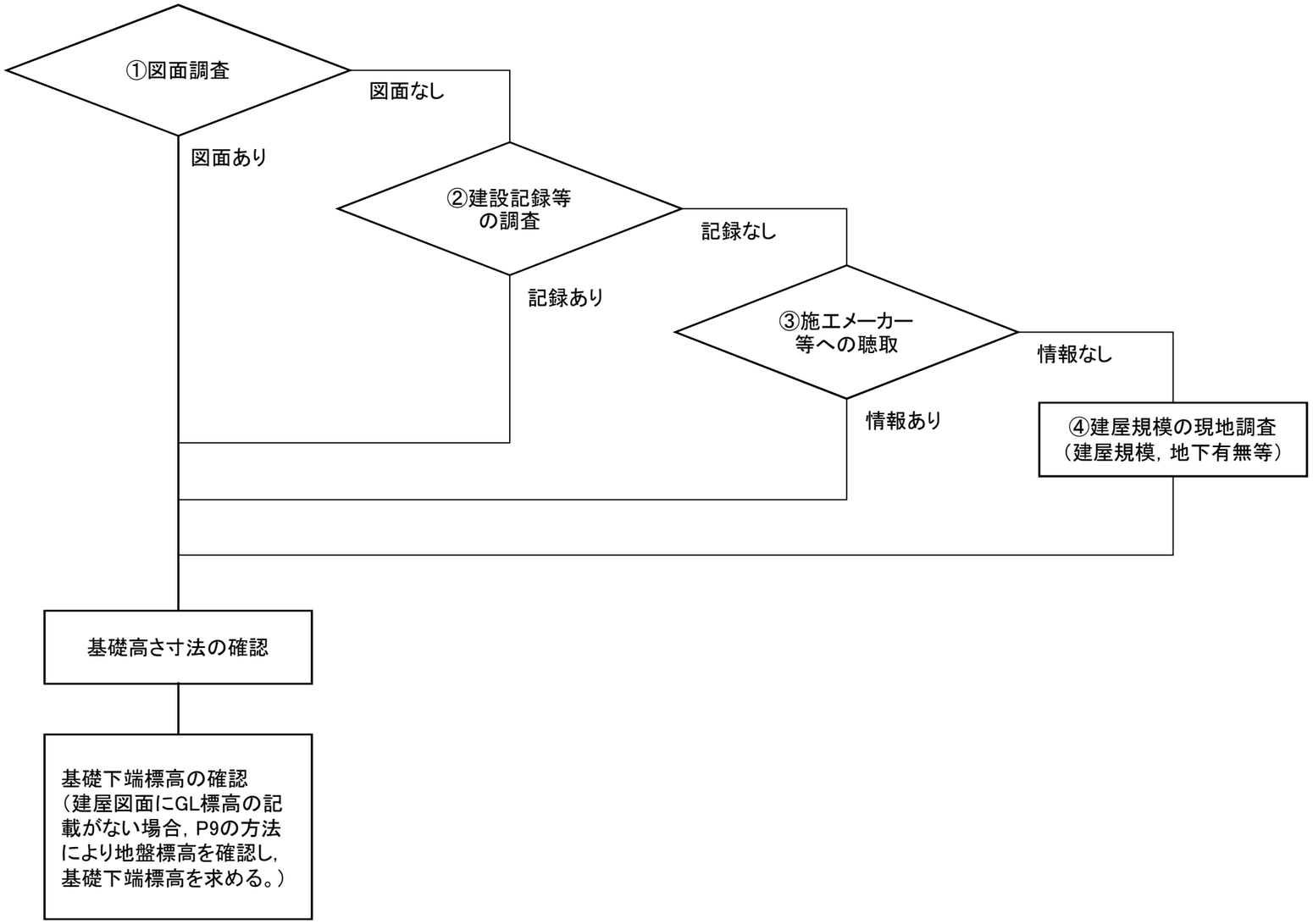
No.	名称	静水圧による揚圧力（kN/m）	過剰間隙水圧による揚圧力（kN/m）	安全率
1	排油配管	=AI19*D11*W19	=(D7-D11)*W19*AI19	=(AO19+AP19+AQ19)/(AR19+AS19)
2	電線管路			
3	電線管路	=AI21*D11*W21	=(D7-D11)*W21*AI21	=(AO21+AP21+AQ21)/(AR21+AS21)
4	電線管路	=AI22*D11*W22	=(D7-D11)*W22*AI22	=(AO22+AP22+AQ22)/(AR22+AS22)
5	電線管路	=AI23*D11*W23	=([illegible]	[illegible]23+AP23+AQ23)/(AR23+AS23)
6	電線管路	=AI24*D11*W24	=([illegible]	[illegible]24+AP24+AQ24)/(AR24+AS24)
7	電線管路	=AI25*D11*W25	=([illegible]	[illegible]25+AP25+AQ25)/(AR25+AS25)
8	電線管路	=AI26*D11*W26	=([illegible]	[illegible]26+AP26+AQ26)/(AR26+AS26)
9	電線管路	=AI27*D11*W27	=(D7-D11)*W27*AI27	=(AO27+AP27+AQ27)/(AR27+AS27)
10	電線管路	=AI28*D11*W28	=(D7-D11)*W28*AI28	=(AO28+AP28+AQ28)/(AR28+AS28)
11	電線管路	=AI29*D11*W29	=(D7-D11)*W29*AI29	=(AO29+AP29+AQ29)/(AR29+AS29)
12	電線管路	=AI30*D11*W30	=(D7-D11)*W30*AI30	=(AO30+AP30+AQ30)/(AR30+AS30)

計算式を表示

建屋基礎高さ及び下端標高の確認方法について(1/5)

- 建屋基礎高さ及び下端標高の確認は，根拠資料に基づき確認を行った。
- 根拠資料は基礎寸法が確認できる図面を基本とするが，図面が確認できない建屋については，下記のフローに従い，根拠資料の検索を行った。

基礎下端標高の確認作業フロー



建屋基礎高さ及び下端標高の確認方法について(2/5)

・下表に建屋基礎高さを確認した根拠資料の一覧を示す。

No.	名称	根拠資料
1	機械工作室用ボンベ庫	①図面
2	監視所	①図面
3	消防自動車車庫	①図面
4	H2O2ボンベ庫	①図面
5	機械工作室	①図面
6	屋内開閉所	①図面
7	パトロール車車庫	①図面
8	H2CO2ガスボンベ貯蔵庫	①図面
9	主発電機用ガスボンベ庫	①図面
10	タービン建屋	①図面
11	原子炉建屋	①図面
12	サービス建屋	①図面
13	水電解装置建屋	①図面
14	ベーラー建屋	①図面
15	サンプルタンク室（R／W）	①図面
16	ヘパフィルター室	①図面
17	マイクロ無線機室	①図面
18	モルタル混練建屋	①図面
19	廃棄物処理建屋	①図面
20	排気筒モニター室	①図面
21	機器搬入口建屋	①図面
22	地下排水上屋（東西）	①図面
23	CO2ボンベ室	①図面
24	チェックポイント	①図面
25	サービス建屋～チェックポイント歩道上屋	①図面
26	サービス建屋ボンベ室	①図面
27	所内ボイラー用ボンベ庫	①図面
28	擁壁①	①図面
29	別館	①図面
30	PR第二電気室	①図面
31	給水処理建屋	①図面
32	固体廃棄物貯蔵庫A棟	①図面
33	固体廃棄物貯蔵庫B棟	①図面
34	給水加熱器保管庫	①図面
35	取水口電気室	①図面
36	屋外第二電気室	①図面
37	補修装置等保管倉庫	①図面
38	プロパンガスボンベ室	①図面
39	機材倉庫	①図面
40	No.1保修用油倉庫	①図面
41	No.2保修用油倉庫	①図面
42	固体廃棄物作業建屋	①図面
43	緊急時対策室建屋	①図面
44	事務本館	①図面
45	原子炉建屋（東海発電所）	①図面
46	タービンホール（東海発電所）	①図面
47	サービス建屋（東海発電所）	①図面
48	燃料倉庫	①図面
49	工具倉庫	④建屋規模の現地調査
50	固化処理建屋	①図面
51	サイトバンカー建屋	①図面
52	放射性廃液処理施設	①図面
53	地下タンク上屋（東）	①図面
54	地下タンク上屋（西）	①図面
55	使用済燃料貯蔵施設	①図面
56	Hバンカー	①図面
57	黒鉛スリーブ貯蔵庫	①図面
58	燃料スプリッタ貯蔵庫	①図面
59	低放射性固体廃棄物詰ドラム貯蔵庫	①図面
60	保修機材倉庫	①図面
61	ボーリングコア倉庫	①図面
62	ランドリー建屋	①図面
63	再利用物品置場テントNo.4	①図面
64	再利用物品置場テントNo.5	①図面
65	再利用物品置場テントNo.6	①図面
66	ボイラー上屋	①図面
67	使用済燃料乾式貯蔵建屋	①図面
68	非常用ディーゼルポンプ室	①図面

No.	名称	根拠資料
69	C.W.P制御盤室	①図面
70	油倉庫	①図面
71	配電設備室	①図面
72	水処理倉庫	④建屋規模の現地調査
73	資料2号倉庫	①図面
74	資料5号倉庫	①図面
75	資料4号倉庫	①図面
76	擁壁②	①図面
77	常設代替高圧電源装置	①図面
78	排水処理建屋	①図面
79	送水ポンプ室	①図面
80	受水槽量水器小屋	①図面
81	加圧式空気圧縮機小屋	①図面
82	飲料水ポンプ室	②構造計算書
83	空気圧縮機室	①図面
84	ホットワークショップ	①図面
85	屋外タンク上屋	①図面
86	飲料水次亜鉛滅菌装置室	①図面
87	緊急時対策所建屋	①図面
88	原子力館	①図面
89	正門監視所	①図面
90	放管センター	①図面
A	275kV送電鉄塔（No.1）	③メーカーからの情報
B	154kV・66kV送電鉄塔（No.6）	③メーカーからの情報
C	154kV・66kV送電鉄塔（No.7）	③メーカーからの情報
D	154kV・66kV送電鉄塔（No.8）	③メーカーからの情報
E	多目的タンク	①図面
F	純水貯蔵タンク	①図面
G	ろ過水貯蔵タンク	①図面
H	原水タンク	①図面
I	溶融炉苛性ソーダタンク	①図面
J	溶融炉アンモニアタンク	①図面
K	主要変圧器	①図面
L	所内変圧器	①図面
M	起動変圧器	①図面
N	予備変圧器	①図面
O	廃棄物処理建屋 換気空調ダクト	建屋屋上に設置されている設備のため対象外
P	主排気ダクト	建屋屋上に設置されている設備のため対象外
Q	排気筒	①図面
R	排気筒（東海発電所）	建屋屋上に設置されている設備のため対象外
S	No.1所内トランスN2タンク	①図面
T	No.1主トランスN2タンク	①図面
U	No.2主トランスN2タンク	①図面
V	No.2所内トランスN2タンク	①図面
W	600t純水タンク	①図面
X	154kV引留鉄構	①図面

建屋基礎高さ及び下端標高の確認方法について(3/5)

- 以下に収集した根拠資料に基づき基礎高さを確認した結果を例示する。

① 図面から確認した例(GLの標高が図面で確認できる場合)

建屋基礎高さ及び下端標高の確認方法について(4/5)

- 以下に収集した根拠資料に基づき基礎高さを確認した結果を例示する。

① 図面から確認した例(GLの標高が図面で確認できない場合)

建屋基礎高さ及び下端標高の確認方法について(5/5)

- 以下に収集した根拠資料に基づき基礎高さを確認した結果を例示する。

② 建設記録等(構造計算書)の根拠から確認した例

No.82　飲料水ポンプ室　　No.82 飲料水ポンプ室

基礎の検討

== 条件 ==　全体をべた基礎状にするが荷重については周囲を連続基礎と考え周囲のみで荷重を受けるものと考える。
ポンプについては、荷重を一基あたり 900kgと想定する。

上屋自重は、㎡ 当たり150 kg とみて 屋根, 壁面積より

45.8 ×0.15 = 6.87 (t)

基礎各部分の体積は、

ベタ基礎厚さ

基礎立ち上がり部分二箇所分の体積	0.6 ×1.04	×0.119 ×2	= 0.1485
スラブ部分の体積	3.62×3.30	×0.20	= 2.3892
スラブよりの基礎立ち下がり分の体積 (全長13.84m)	0.15×0.25	×13.84	= 0.5190
合計			3.06 (㎥)

より基礎自重は、 3.06×2.3 ≒ 7.04 (t)

即ち 基礎自重+上屋自重+ポンプ自重=7.04+ 6.87 +1.8 = 15.71 (t)
立ち下がり部分の基礎面積 0.25 × 13.84 = 3.46 ㎡
従って所要地耐力は、 15.71/3.46 ≒ 4.54 (t/㎡) 以上となる
地耐力が 5 (t/㎡) ていどは、期待できること又実際には、ベタ基礎状態であるので安全。

ポンプ基礎とスラブの剪断力の検討
コンクリートは剪断に抵抗しない(期待しない)ポンプ, 基礎の荷重が全部剪断に働くと仮定して鉄筋の必要断面積は、(鉄筋の耐力が2000kg/㎠, 安全率 1.5で)
1.5× 1360/ 2000 = 1.02㎠ となる 径の細すぎる鉄筋での施工性が悪い事を考慮して D10鉄筋を使用する事を考えると断面積0.7133㎠でであるので2 本でOKとなる。
従って D10-@150 (D10 鉄筋を間隔150mm で配置する) とする。

ベタ基礎厚さ0.2mと読み取れるが，根入れ深さが不明なため，安全側に設置地盤標高から0.2mを差し引いた値を基礎下端標高とした。

④ 建屋規模の現地調査から確認した例

No.72　水処理倉庫

①～③の手順でも根拠資料が見つからなかったため，現地調査により建屋規模を確認した。
結果，極小規模の倉庫であり，地下室等も確認されなかったため，類似する建屋の基礎高さから1m未満と判断した。

建屋の基礎下端の数値の変更について

建屋基礎下端標高を適正化した内容

- 建屋基礎下端標高を適正化した内容は，下記のとおりである。
  ① 数値の丸め方（少数点以下第二位を四捨五入→切り捨て）及び基礎下端とする位置（砕石下端→躯体下端）を見直した。
  ② 同一建屋において高さの異なる基礎があり，採用する基礎下端標高を見直した。
  ③ 同一規模の建屋との比較により基礎高さを1mと判断していたが，図面調査等により基礎高さを確認できたため，基礎下端標高を見直した。
- 下表に適正化の分類を示す。

＜見直し前＞

：沈下量が15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎※下端	地下水位	掘削形式	アクセスルートへの影響	埋戻部の沈下量
		T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	開削，土留	影響有：×	（cm）
1	機械工作室用ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
2	監視所	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
3	消防自動車車庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
4	H2O2ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
5	機械工作室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
6	屋内開閉所	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
7	パトロール車車庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
8	H2CO2ガスボンベ貯蔵庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
9	主発電機用ガスボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
10	タービン建屋	8.0	-14.9	8.0	開削	○	－
11	原子炉建屋	8.0	-15.0	-15.0	開削	×	23.0
12	サービス建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
13	水電解装置建屋	8.0	6.8	8.0	開削	○	－
14	ベーラー建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
15	サンプルタンク室（R／W）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
16	ヘパフィルター室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
17	マイクロ無線機室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
18	モルタル混練建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
19	廃棄物処理建屋	8.0	-13.2	-13.2	土留	×	21.2
20	排気塔モニター室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
21	機器搬入口建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
22	地下排水上屋（東西）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
23	CO2ボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
24	チェックポイント	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
25	サービス建屋～チェックポイント歩道上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
26	サービス建屋ボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
27	所内ボイラー用ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
28	擁壁①	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
29	別館	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
30	PR第二電気室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
31	給水処理建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
32	固体廃棄物貯蔵庫A棟	8.0	1.6	8.0	開削	×	14.7
33	固体廃棄物貯蔵庫B棟	8.0	2.6	8.0	開削	×	12.5
34	給水加熱器保管庫	5.0	4.0	5.0	開削	○	－
35	取水口電気室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
36	屋外第二電気室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
37	補修装置等保管倉庫	8.0	6.9	8.0	開削	○	－
38	プロパンガスボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
39	機材倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
40	No.1保修用油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
41	No.2保修用油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
42	固体廃棄物作業建屋	8.0	5.0	8.0	土留	×	6.9
43	緊急時対策室建屋	8.0	4.0	8.0	土留	×	9.2
44	事務本館	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
45	原子炉建屋（東海発電所）	8.0	-11.1	8.0	開削	○	－
46	タービンホール（東海発電所）	8.0	0.6	8.0	開削	○	－
47	サービス建屋（東海発電所）	8.0	6.6	8.0	開削	○	－
48	燃料倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
49	工具倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
50	固化処理建屋	8.0	6.7	8.0	開削	○	－
51	サイトバンカー建屋	8.0	2.0	8.0	開削	×	13.8
52	放射性廃液処理施設	8.0	4.0	8.0	開削	○	－
53	地下タンク上屋（東）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
54	地下タンク上屋（西）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
55	使用済燃料貯蔵施設	8.0	6.1	8.0	開削	○	－
56	Hバンカー	8.0	6.1	8.0	開削	○	－
57	黒鉛スリーブ貯蔵庫	8.0	6.1	8.0	開削	○	－
58	燃料スプリッタ貯蔵庫	8.0	6.1	8.0	開削	○	－
59	低放射性固体廃棄物詰ドラム貯蔵庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
60	保修機材倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
61	ボーリングコア倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
62	ランドリー建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
63	再利用物品置場テントNo.4	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
64	再利用物品置場テントNo.5	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
65	再利用物品置場テントNo.6	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
66	ボイラー上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
67	使用済燃料乾式貯蔵建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
68	非常用ディーゼルポンプ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－

※　基礎下端高さは，基礎高さ1m未満の建屋は，基礎高さを１ｍとする。

＜見直し後＞

：沈下量が15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎※下端	地下水位	掘削形式	アクセスルートへの影響	埋戻部の沈下量	適正化の分類
		T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	T.P.＋（m）	開削，土留	影響有：×	（cm）	
1	機械工作室用ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
2	監視所	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
3	消防自動車車庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
4	H2O2ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
5	機械工作室	8.0	6.3	8.0	開削	○	－	③
6	屋内開閉所	8.0	6.0	8.0	開削	○	－	③
7	パトロール車車庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
8	H2CO2ガスボンベ貯蔵庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
9	主発電機用ガスボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
10	タービン建屋	8.0	-14.9	8.0	開削	×	52.7	－
11	原子炉建屋	8.0	-15.0	-15.0	開削	×	23.0	－
12	サービス建屋	8.0	6.3	8.0	開削	○	－	③
13	水電解装置建屋	8.0	6.9	8.0	開削	○	－	①
14	ベーラー建屋	8.0	4.0	8.0	開削	○	－	③
15	サンプルタンク室（R／W）	8.0	6.9	8.0	開削	○	－	①
16	ヘパフィルター室	8.0	4.1	8.0	開削	○	－	③
17	マイクロ無線機室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
18	モルタル混練建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
19	廃棄物処理建屋	8.0	-13.2	-13.2	土留	×	21.2	－
20	排気筒モニター室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
21	機器搬入口建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
22	地下排水上屋（東西）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
23	CO2ボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
24	チェックポイント	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
25	サービス建屋～チェックポイント歩道上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
26	サービス建屋ボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
27	所内ボイラー用ボンベ庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
28	擁壁①	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
29	別館	11.0	9.0	11.0	開削	○	－	－
30	PR第二電気室	11.0	10.0	11.0	開削	○	－	－
31	給水処理建屋	11.0	10.0	11.0	開削	○	－	－
32	固体廃棄物貯蔵庫A棟	8.0	1.6	8.0	開削	×	14.8	－
33	固体廃棄物貯蔵庫B棟	8.0	2.5	8.0	開削	×	12.7	①
34	給水加熱器保管庫	5.0	4.0	5.0	開削	○	－	－
35	取水口電気室	3.0	2.0	3.0	開削	○	－	－
36	屋外第二電気室	8.0	4.5	8.0	開削	×	8.1	③
37	補修装置等保管倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	①
38	プロパンガスボンベ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
39	機材倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
40	No.1保修用油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
41	No.2保修用油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
42	固体廃棄物作業建屋	8.0	5.3	8.0	土留	×	6.3	①
43	緊急時対策室建屋	8.0	4.1	8.0	土留	×	9.0	①
44	事務本館	8.0	5.7	8.0	開削	○	－	③
45	原子炉建屋（東海発電所）	8.0	1.6	8.0	開削	○	－	②
46	タービンホール（東海発電所）	8.0	0.9	8.0	開削	○	－	①
47	サービス建屋（東海発電所）	8.0	6.6	8.0	開削	○	－	－
48	燃料倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
49	工具倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
50	固化処理建屋	8.0	5.7	8.0	開削	○	－	②
51	サイトバンカー建屋	8.0	1.9	8.0	開削	×	14.1	①
52	放射性廃液処理施設	8.0	2.9	8.0	開削	○	－	②
53	地下タンク上屋（東）	8.0	－	－	－	○	－	③
54	地下タンク上屋（西）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
55	使用済燃料貯蔵施設	8.0	6.1	8.0	開削	○	－	－
56	Hバンカー	8.0	6.2	8.0	開削	○	－	①
57	黒鉛スリーブ貯蔵庫	8.0	6.2	8.0	開削	○	－	①
58	燃料スプリッタ貯蔵庫	8.0	6.2	8.0	開削	○	－	①
59	低放射性固体廃棄物詰ドラム貯蔵庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
60	保修機材倉庫	8.0	6.8	8.0	開削	○	－	③
61	ボーリングコア倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
62	ランドリー建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
63	再利用物品置場テントNo.4	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
64	再利用物品置場テントNo.5	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
65	再利用物品置場テントNo.6	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
66	ボイラー上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
67	使用済燃料乾式貯蔵建屋	8.0	5.8	8.0	開削	○	－	③
68	非常用ディーゼルポンプ室	8.0	－	－	－	○	－	③

※　基礎下端高さは，基礎高さ1m未満の建屋は，基礎高さを１ｍとする。

建屋の基礎下端の数値の変更について

建屋基礎下端標高を適正化した内容

- 建屋基礎下端標高を適正化した内容は，下記のとおりである。
  ① 数値の丸め方（少数点以下第二位を四捨五入→切り捨て）及び基礎下端とする位置（砕石下端→躯体下端）を見直した。
  ② 同一建屋において高さの異なる基礎があり，採用する基礎下端標高を見直した。
  ③ 同一規模の建屋との比較により基礎高さを1mと判断していたが，図面調査等により基礎高さを確認できたため，基礎下端標高を見直した。
- 下表に適正化の分類を示す。

＜見直し前＞

：沈下量が15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎下端	地下水位	掘削形式	アクセスルートへの影響	埋戻部の沈下量
		T.P.+（m）	T.P.+（m）	T.P.+（m）	開削，土留	影響有：×	（cm）
69	C.W.P制御盤室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
70	油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
71	配電設備室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
72	水処理倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
73	資料2号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
74	資料5号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
75	資料4号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
76	擁壁②	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
77	常設代替高圧電源装置	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
78	排水処理建屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
79	送水ポンプ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
80	受水槽量水器小屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
81	加圧式空気圧縮機小屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
82	飲料水ポンプ室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
83	空気圧縮機室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
84	ホットワークショップ	8.0	5.0	8.0	開削	○	－
85	屋外タンク上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
86	飲料水次亜鉛滅菌装置室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
87	緊急時対策所建屋	23.0	22.0	23.0	開削	○	－
88	原子力館	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
89	正門監視所	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
90	放管センター	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
A	275kV送電鉄塔（No.1）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
B	154kV・66kV送電鉄塔（No.6）	20.0	19.0	20.0	開削	○	－
C	154kV・66kV送電鉄塔（No.7）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
D	154kV・66kV送電鉄塔（No.8）	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
E	多目的タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
F	純水貯蔵タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
G	ろ過水貯蔵タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
H	原水タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
I	溶融炉苛性ソーダタンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
J	溶融炉アンモニアタンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
K	主要変圧器	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
L	所内変圧器	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
M	起動変圧器	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
N	予備変圧器	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
O	廃棄物処理建屋 換気空調ダクト	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
P	排気筒	8.0	4.5	8.0	土留	○	－
Q	排気筒（東海発電所）	8.0	4.5	8.0	開削	○	－
R	No.1所内トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
S	No.1主トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
T	No.2主トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
U	No.2所内トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－
V	600t純水タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－

※ 基礎下端高さは，基礎高さ1m未満の建屋は，基礎高さを１ｍとする。

＜見直し後＞

：沈下量が15cmを超える箇所

No.	名称	路面高	基礎下端	地下水位	掘削形式	アクセスルートへの影響	埋戻部の沈下量	適正化の分類
		T.P.+（m）	T.P.+（m）	T.P.+（m）	開削，土留	影響有：×	（cm）	
69	C.W.P制御盤室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
70	油倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
71	配電設備室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
72	水処理倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
73	資料2号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
74	資料5号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
75	資料4号倉庫	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
76	擁壁②	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
77	常設代替高圧電源装置	11.0	-24.0	11.0	土留	－	－	－
78	排水処理建屋	11.0	8.4	11.0	開削	○	－	－
79	送水ポンプ室	11.0	10.0	11.0	開削	○	－	－
80	受水槽量水器小屋	11.0	6.4	11.0	開削	○	－	－
81	加圧式空気圧縮機小屋	11.0	10.0	11.0	開削	○	－	－
82	飲料水ポンプ室	11.0	10.0	11.0	開削	○	－	－
83	空気圧縮機室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
84	ホットワークショップ	8.0	4.5	8.0	開削	○	－	②
85	屋外タンク上屋	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
86	飲料水次亜鉛滅菌装置室	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
87	緊急時対策所建屋	23.0	20.8	23.0	開削	－	－	③
88	原子力館	8.0	6.8	8.0	開削	○	－	③
89	正門監視所	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
90	放管センター	8.0	6.2	8.0	開削	○	－	③
A	275kV送電鉄塔（No.1）	8.0	2.7	8.0	開削	○	－	③
B	154kV・66kV送電鉄塔（No.6）	16.4	13.6	16.4	開削	○	－	－
C	154kV・66kV送電鉄塔（No.7）	18.6	14.3	18.6	開削	○	－	－
D	154kV・66kV送電鉄塔（No.8）	14.1	9.9	14.1	開削	○	－	－
E	多目的タンク	11.0	10.0	11.0	開削	○	－	－
F	純水貯蔵タンク	11.0	10.0	11.0	開削	○	－	－
G	ろ過水貯蔵タンク	11.0	10.0	11.0	開削	○	－	－
H	原水タンク	11.0	10.0	11.0	開削	○	－	－
I	溶融炉苛性ソーダタンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
J	溶融炉アンモニアタンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
K	主要変圧器	8.0	3.5	8.0	開削	○	－	③
L	所内変圧器	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
M	起動変圧器	8.0	4.0	8.0	開削	○	－	③
N	予備変圧器	8.0	4.0	8.0	開削	○	－	③
O	廃棄物処理建屋 換気空調ダクト	－	－	－	－	－	－	③
P	主排気ダクト	－	－	－	－	－	－	－
Q	排気筒	8.0	4.5	8.0	土留	○	－	－
R	排気筒（東海発電所）	－	－	－	－	－	－	③
S	No.1所内トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
T	No.1主トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
U	No.2主トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
V	No.2所内トランスN2タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
W	600t純水タンク	8.0	7.0	8.0	開削	○	－	－
X	154kV引留鉄構	11.0	9.7	11.0	開削	○	－	－

※ 基礎下端高さは，基礎高さ1m未満の建屋は，基礎高さを１ｍとする。

建屋基礎下端標高を適正化した内容(1/5)

- 建屋基礎下端標高を適正化した内容②について以下に例示する。
  ②　同一建屋において高さの異なる基礎があり，採用する基礎下端標高を見直した。

② の見直し例(№45 原子炉建屋(東海発電所))

(E) 建設の容易性と経済性

この発電所で最も重量が大きく重要なものは原子炉建物(105,000t)であるが，敷地全体をE.L.8mに整地し，この建物の下部はE.L.1.6mまでオープンカットし，そこからケーソン30基を沈設してE.L.−15.2mの砂質泥岩の基盤まで到達させた。

原子炉建物の工事ならびに重量機器組立のため高さ125m，釣揚125tのメーンデリックを原子炉建物の東側中央に接して設けると共に，4基の三脚デリック(シビル・デリック)を同建物の四隅に設け，その附近に圧力容器組立工家，熱交換器組立工場(SRU Workshop)等を設けた。その他工事用変電所，給水設備，コンクリート製造工場，溶接教育訓練所，焼鈍炉，各社事務所，倉庫，作業場，材料置場等を仮設道路に沿って主として北側および東側に配置している。

なお倉庫類は工事中収容品の内容に応じ一部改造の上転用をはかり，永久建物の一部早期完成により工事用建物として利用し，仮設道路を永久道路へ転用する等費用の節減をはかった。

工事記録より抜粋

東海発電所の原子炉建屋基礎構造はケーソン基礎で岩着させており，当初ケーソン基礎下端を基礎下端標高と考えていたが，工事記録の調査によって，掘削はE.L.+1.6mまでオープンカットされ，ケーソン基礎は沈設していることが判明したため，基礎下端標高を建屋躯体下端(E.L.+1.6m)に見直した。

建屋基礎下端標高を適正化した内容(2/5)

② の見直し例(№50 固化処理建屋)

建屋基礎下端標高を適正化した内容(3/5)

- 建屋基礎下端標高を適正化した内容③の考え方は以下のとおりである。
  ③　同一規模の建屋との比較により基礎高さを1mと判断していたが，図面調査等により基礎高さを確認できたため，基礎下端標高を見直した。
- 以下に例示する建屋は，鉄筋コンクリート造の中規模建屋であるが，基礎高さは1mであり，これらの建屋と同程度又はこれ以下の規模の建屋を基礎高さ1mと判断した。
- 図面調査等の進捗により基礎高さが確認できたため，基礎下端標高を見直した。
- 見直し前後の基礎下端標高の差分が大きいものについては，地下室等が存在したもの，地下埋設物を避けるために深い位置に基礎を支持させていたもの等がある。

以下に例示する建屋は，基礎高さが1mであるため，これらの建屋との比較により他の建屋基礎高さを1mと判断した。

建屋基礎下端標高を適正化した内容(4/5)

③の見直し例(見直し前後の基礎下端標高の差分が大きいものの例) №14 ベーラー建屋

建屋基礎下端標高を適正化した内容(5/5)

③の見直し例(基礎下端標高見直し後に標高を「－」とした建屋の例)　No.53　地下タンク上屋(東)※

※No.53　地下タンク上屋(東), No.54　地下タンク上屋(西)は, No.52　放射性廃液処理建屋に増築された上屋である。(地下タンクは放射性廃液処理建屋内に設置されている)

構造物等の損壊による屋外アクセスルートへの影響評価の変更反映について

＜見直し前＞

参照図面	No	アクセスルート周辺構造物	構造物諸元 建物構造	構造物諸元 高さ（m）H	構造物諸元 アクセスルート対象距離（m）L	アクセスルート幅（m）W	評価方法	影響評価 判定値：L－H 正の数：干渉なし	影響評価 判定値：L＋W－H 5m以上：影響なし	判定
第2,5図	1	機械工作室用ボンベ庫	S	2.5	29.7	7.5	損壊による影響範囲をHとして評価	27.2	34.7	A
	2	監視所	RC	4.6	2.2	7.5		-2.4	5.1	A
	3	消防自動車車庫	S	5.0	7.9	10.0		2.9	12.9	A
	4	H2O2ボンベ庫	S	4.4	24.6	7.5		20.2	27.7	A
	5	機械工作室	S	10.3	33.2	7.5		22.9	30.4	A
	6	屋内開閉所	S	16.8	8.3	10.0		-8.5	1.5	B
	7	パトロール車車庫	S	6.0	3.0	10.0		-3.0	7.0	A
	8	H2CO2ガスボンベ貯蔵庫	S	5.5	14.3	10.0		8.8	18.8	A
	9	主発電機用ガスボンベ庫	S	4.5	26.1	10.0		21.6	31.6	A
	10	タービン建屋	RC	32.5	39.2	10.0		6.8	16.8	A
	11	原子炉建屋	RC	－	－	－	耐震評価により損壊しないことを確認	－	－	A
			S	－	－	－		－	－	A※1
	12	サービス建屋	RC	14.7	31.4（東側）	7.5	損壊による影響範囲をHとして評価	16.7	24.2	A
					0.0（南側）	5.0		-14.7	-9.7	C※2
	13	水電解装置建屋	RC	8.2	8.2	10.2		0.0	10.2	A
	14	ベーラー建屋	RC	6.0	6.0	5.0		0.0	5.0	A
	15	サンプルタンク室（R／W）	S	9.9	0.0	5.0		-9.9	-4.9	－
	16	ヘパフィルター室	RC	5.7	1.4（東側）	6.2		-4.3	1.9	A※3
					3.2（南側）	5.0		-2.5	2.5	A※3
	17	マイクロ無線機室	S	3.6	3.6	5.5		0.0	5.5	A
	18	モルタル混練建屋	S	14.9	12.4	5.5		-2.5	3.0	B
	19	廃棄物処理建屋	RC	－	－	－	耐震評価により損壊しないことを確認	－	－	A
			S	－	－	－		－	－	A※1
	20	排気塔モニター室	RC	4.0	11.7	10.2	損壊による影響範囲をHとして評価	7.8	18.0	A
	21	機器搬入口建屋	S	8.4	7.5	10.0		-0.9	9.1	A
	22	地下排水上屋（東西）	RC	2.9	14.1	10.0		11.2	21.2	A
	23	CO2ボンベ室	S	4.9	5.9	10.0		1.1	11.1	A
	24	チェックポイント	RC	11.4	11.4	10.0		0.0	10.0	A
	25	サービス建屋～チェックポイント歩道上屋	S	2.0	0.0	10.0		－	－	A※4
	26	サービス建屋ボンベ室	S	3.2	2.3	5.0		-0.9	4.2	C※2

【判定】 □：「A」通行性に影響がない構造物（耐震性があるため損壊しない，がれきがルートに干渉しない，がれきがルートに干渉するがルートの必要幅が確保可能，設備の移設等の対策を実施）
■：「B」がれき撤去によりアクセスルートを確保する構造物（車両通行のみの場合はがれき撤去不要な構造物も含む）
■：「C」がれき発生時は別ルートを通行する構造物
■：がれき発生時は重機によるがれき撤去は行わずに人力でがれき上にホース等を敷設する構造物

※1：脱落及び損傷しないこととすることにより，通行性を確保（参考資料-2 参照）
※2：当該構造物近傍のルートは，放水砲設置時にだけ使用するルートであるため，がれき影響がある場合は，他のルートによりがれき影響がない箇所に放水砲を設置する
※3：当該箇所は人力でホースを敷設する範囲のため，1.4m 以上のルート幅が確保できればホース敷設作業に影響はない。
※4：対策を実施することで通行性を確保（第 8 図参照）

＜見直し後＞

参照図面	No	アクセスルート周辺構造物	構造物諸元 建物構造	構造物諸元 高さ（m）H	構造物諸元 アクセスルート対象距離（m）L	アクセスルート幅（m）W	評価方法	影響評価 判定値：L－H 正の数：干渉なし	影響評価 判定値：L＋W－H 5m以上：影響なし	判定
第2,5図	1	機械工作室用ボンベ庫	S	2.5	29.7	7.5	損壊による影響範囲をHとして評価	27.2	34.7	A
	2	監視所	RC	4.6	2.2	7.5		-2.4	5.1	A
	3	消防自動車車庫	S	5.0	7.9	10.0		2.9	12.9	A
	4	H2O2ボンベ庫	S	4.4	24.6	7.5		20.2	27.7	A
	5	機械工作室	S	10.3	33.2	7.5		22.9	30.4	A
	6	屋内開閉所	S	16.8	8.3	10.0		-8.5	1.5	B
	7	パトロール車車庫	S	6.0	3.0	10.0		-3.0	7.0	A
	8	H2CO2ガスボンベ貯蔵庫	S	5.5	14.3	10.0		8.8	18.8	A
	9	主発電機用ガスボンベ庫	S	4.5	26.1	10.0		21.6	31.6	A
	10	タービン建屋	RC	32.5	39.2	10.0		6.8	16.8	A
	11	原子炉建屋	RC	－	－	－	耐震評価により損壊しないことを確認	－	－	A
			S	－	－	－		－	－	A※1
	12	サービス建屋	RC	14.7					24.2	A
									-9.7	C※2
	13	水電解装置建屋	RC	8.2					10.2	A
	14	ベーラー建屋	RC	6.0					5.0	A
	15	サンプルタンク室（R／W）	S	9.9					-4.9	－
	16	ヘパフィルター室	RC	5.7		3.2（南側）	5.0	-2.5	2.5	A※3
	17	マイクロ無線機室	S	3.6	3.6	5.5		0.0	5.5	A
	18	モルタル混練建屋	S	14.9	12.4	5.5		-2.5	3.0	B
	19	廃棄物処理建屋	RC	－	－	－	耐震評価により損壊しないことを確認	－	－	A
			S	－	－	－		－	－	A※1
	20	排気塔モニター室	RC	4.0	11.7	10.2	損壊による影響範囲をHとして評価	7.8	18.0	A
	21	機器搬入口建屋	S	8.4	7.5	10.0		-0.9	9.1	A
	22	地下排水上屋（東西）	RC	2.9	4.0	10.0		1.1	11.1	A
	23	CO2ボンベ室	S	4.9	5.9	10.0		1.1	11.1	A
	24	チェックポイント	RC	11.4	11.4	10.0		0.0	10.0	A
	25	サービス建屋～チェックポイント歩道上屋	S	2.0	0.0	10.0		－	－	A※4
	26	サービス建屋ボンベ室	S	3.2	2.3	5.0		-0.9	4.2	C※2

①地下排水上屋付近西側接続口の設計進捗反映

【判定】 □：「A」通行性に影響がない構造物（耐震性があるため損壊しない，がれきがルートに干渉しない，がれきがルートに干渉するがルートの必要幅が確保可能，設備の移設等の対策を実施）
■：「B」がれき撤去によりアクセスルートを確保する構造物（車両通行のみの場合はがれき撤去不要な構造物も含む）
■：「C」がれき発生時は別ルートを通行する構造物
■：がれき発生時は重機によるがれき撤去は行わずに人力でがれき上にホース等を敷設する構造物

※1：脱落及び損傷しないこととすることにより，通行性を確保（参考資料-2 参照）
※2：当該構造物近傍のルートは，放水砲設置時にだけ使用するルートであるため，がれき影響がある場合は，他のルートによりがれき影響がない箇所に放水砲を設置する
※3：当該箇所は人力でホースを敷設する範囲のため，1.4m 以上のルート幅が確保できればホース敷設作業に影響はない
※4：対策を実施することで通行性を確保（第 8 図参照）

参照図面	No	アクセスルート周辺構造物	構造物諸元 建物構造	構造物諸元 高さ（m）H	構造物諸元 アクセスルート対象距離（m）L	アクセスルート幅（m）W	評価方法	影響評価 判定値：L－H 正の数：干渉なし	影響評価 判定値：L＋W－H 5m以上：影響なし	判定
第2,5図	27	所内ボイラー用ボンベ庫	S	2.5	33.1	7.5	損壊による影響範囲をHとして評価	30.6	38.1	A
	28	擁壁①	S	3.6	1.5	7.5		-2.1	5.4	A
	29	別館	RC	9.4	19.5	7.5		10.1	17.6	A
	30	PR第二電気室	RC	4.3	18.5	7.5		14.2	21.7	A
	31	給水処理建屋	S	9.0	35.1	7.5		26.2	33.7	A
第3,6図	32	固体廃棄物貯蔵庫A棟	RC	5.9	2.5	7.5		-3.4	4.1	C
	33	固体廃棄物貯蔵庫B棟	RC	10.6	3.6	10.5		-7.0	3.5	C
	34	給水加熱器保管庫	RC	9.4	6.2	15.0		-3.2	11.8	A
	35	取水口電気室	RC	4.0	18.3	7.5		14.3	21.8	A
	36	屋外第二電気室	S	5.5	3.1	7.5		-2.4	5.1	A
	37	補修装置等保管倉庫	S	10.0	2.9	10.2		-7.1	3.1	B
	38	プロパンガスボンベ室	S	7.3	1.5	10.0		-5.8	4.2	B
	39	機材倉庫	S	9.8	2.7	10.2		-7.1	3.1	B
	40	No.1保修用油倉庫	S	4.9	20.2	10.2		15.3	25.5	A
	41	No.2保修用油倉庫	S	4.9	20.2	10.2		15.3	25.5	A
	42	固体廃棄物作業建屋	RC	20.7	0（東側）	9.0		-20.7	-11.7	C
					0（南側）	9.0		-20.7	-11.7	C
第4,7図	43	緊急時対策室建屋	RC	13.8	0.9	7.5		-12.9	-5.4	C
	44	事務本館	RC	28.2	20.5	7.5		-7.7	-0.2	C
	45	原子炉建屋（東海発電所）	RC	61.0	80.3	5.0		19.3	24.3	A
	46	タービンホール（東海発電所）	S	23.8	20.9	7.5		-3.0	4.6	C
	47	サービス建屋（東海発電所）	RC+S	9.9	1.9	9.0		-8.0	1.0	B※
	48	燃料倉庫	S	12.4	11.2	10.0		-1.2	8.8	A
	49	工具倉庫	S	2.9	11.2	10.0		8.3	18.3	A
	50	固化処理建屋	RC	9.0	10.8	8.7		1.8	10.5	A
	51	サイトバンカー建屋	S	9.9	6.3（北側）	9.0		-3.6	5.4	B
					0.0（東側）	13.7		-9.9	3.8	B
	52	放射性廃液処理施設	S	9.4	20.7	10.0		11.3	21.3	A
	53	地下タンク上屋（東）	S	4.0	20.7	10.0		16.7	26.7	A
	54	地下タンク上屋（西）	S	6.7	20.7	10.0		14.0	24.0	A
	55	使用済燃料貯蔵施設	S	21.7	45.1	10.0		23.4	33.4	A
	56	Hバンカー	S	16.6	57.9	10.0		41.3	51.3	A
	57	黒鉛スリーブ貯蔵庫	S	15.0	28.7	10.0		13.7	23.7	A
	58	燃料スプリッタ貯蔵庫	S	15.0	22.3	10.0		7.3	17.3	A
	59	低放射性固体廃棄物詰ドラム貯蔵庫	S	5.5	42.1	10.0		36.6	46.6	A

【判定】 □：「A」通行性に影響がない構造物（耐震性があるため損壊しない，がれきがルートに干渉しない，がれきがルートに干渉するがルートの必要幅が確保可能，設備の移設等の対策を実施）
■：「B」がれき撤去によりアクセスルートを確保する構造物（車両通行のみの場合はがれき撤去不要な構造物も含む）
■：「C」がれき発生時は別ルートを通行する構造物
■：がれき発生時は重機によるがれき撤去は行わずに人力でがれき上にホース等を敷設する構造物
※対策を実施することで通行性を確保（第 9 図参照）

参照図面	No	アクセスルート周辺構造物	構造物諸元 建物構造	構造物諸元 高さ（m）H	構造物諸元 アクセスルート対象距離（m）L	アクセスルート幅（m）W	評価方法	影響評価 判定値：L－H 正の数：干渉なし	影響評価 判定値：L＋W－H 5m以上：影響なし	判定
第2,5図	27	所内ボイラー用ボンベ庫	S	2.5	33.1	7.5		30.6	38.1	A
	28	擁壁①	RC	3.6	1.5	7.5		-2.1	5.4	A
	29	別館	RC	9.4	19.5	7.5		10.1	17.6	A
	30	PR第二電気室	RC	4.3	18.5	7.5		14.2	21.7	A
	31	給水処理建屋	S	9.0	35.1	7.5		26.2	33.7	A
第3,6図	32	固体廃棄物貯蔵庫A棟	RC	5.9	2.5					C
	33	固体廃棄物貯蔵庫B棟	RC	10.6	3.6					C
	34	給水加熱器保管庫	RC	9.4	6.2					A
	35	取水口電気室	RC	4.0	18.3					A
	36	屋外第二電気室	S	5.5	3.1					A
	37	補修装置等保管倉庫			2.9					B
	38	プロパンガスボンベ			1.5	10.0			4.2	B
	39	機材倉庫			2.7	10.2			3.1	B
	40	No.1保修用油倉庫			20.2	10.				
	41	No.2保修用油倉庫			20.2	10.				
	42	固体廃棄物作業建屋			（東側）	9.				
					（南側）	9.				
第4,7図	43	緊急時対策室建屋	RC	13.8	0.9	7.				
	44	事務本館	RC	28.2	20.5	7.				
	45	原子炉建屋（東海発電所）	RC	61.0	80.3	5.				
	46	タービンホール（東海発電所）	S	23.8	20.9	7.				
	47	サービス建屋（東海発電所）	RC+S	9.9	1.9	9.				
	48	燃料倉庫	S	12.4	11.2	10.0		-1.2	8.8	A
	49	工具倉庫	S	2.9	11.2	10.0		8.3	18.3	A
	50	固化処理建屋	RC	9.0	10.8	8.7		1.8	10.5	A
	51	サイトバンカー建屋	S	9.9	6.3（北側）	9.0		-3.6	5.4	B※2
					7.0（東側）	6.7		-2.9	3.8	B
	52	放射性廃液処理施設	S	9.4	20.7	10.0		11.3	21.3	A
	53	地下タンク上屋（東）	S	4.0	20.7	10.0		16.7	26.7	A
	54	地下タンク上屋（西）	S	6.7	20.7	10.0		14.0	24.0	A
	55	使用済燃料貯蔵施設	S	21.7	45.1	10.0		23.4	33.4	A
	56	Hバンカー	S	16.6	44.0	10.0		27.4	37.4	A
	57	黒鉛スリーブ貯蔵庫	S	15.1	28.7	10.0		13.6	23.6	A
	58	燃料スプリッタ貯蔵庫	S	15.1	22.3	10.0		7.2	17.2	A
	59	低放射性固体廃棄物詰ドラム貯蔵庫	S	5.5	42.1	8.0		36.6	44.6	A

②東海発電所管理区域を考慮したルート幅の設計進捗反映

③CAD読み取り値の精緻化

④小数点以下の記載を精緻化

⑤低放射性固体廃棄物詰ドラム貯蔵庫東側防潮堤沿いルートの設計進捗反映

【判定】 □：「A」通行性に影響がない構造物（耐震性があるため損壊しない，がれきがルートに干渉しない，がれきがルートに干渉するがルートの必要幅が確保可能，設備の移設等の対策を実施）
■：「B」がれき撤去によりアクセスルートを確保する構造物（車両通行のみの場合はがれき撤去不要な構造物も含む）
■：「C」がれき発生時は別ルートを通行する構造物
■：がれき発生時は重機によるがれき撤去は行わずに人力でがれき上にホース等を敷設する構造物
※1：対策を実施することで通行性を確保（第 9 図参照）
※2：廃棄物処理建屋の地山と埋め戻し部との境界部の段差発生のため，ルート幅をがれき撤去により確保

構造物等の損壊による屋外アクセスルートへの影響評価の変更反映について

＜見直し前＞

参照図面	No	アクセスルート周辺構造物	構造物諸元 建物構造	構造物諸元 高さ（m）H	構造物諸元 アクセスルート対象距離（m）L	アクセスルート幅（m）W	評価方法	影響評価 判定値：L－H 正の数：干渉なし	影響評価 判定値：L＋W－H 5m以上：影響なし	判定
第4，7図	60	保修機材倉庫	S	5.5	31.1	8.0	損壊による影響範囲をHとして評価	25.6	33.6	A
	61	ボーリングコア倉庫	S	3.3	72.3	10.0		69.0	79.0	A
	62	ランドリー建屋	RC	4.1	14.7	8.0		10.6	18.6	A
	63	再利用物品置場テントNo.4	－	6.4	8.1	8.0		1.7	9.7	A
	64	再利用物品置場テントNo.5	－	6.2	15.3	8.0		9.1	17.1	A
	65	再利用物品置場テントNo.6	－	6.3	22.6	8.0		16.3	24.3	A
	66	ボイラー上屋	S	6.9	37.4	8.0		30.5	38.5	A
	67	使用済燃料乾式貯蔵建屋	RC	22.0	23.0	10.0		1.0	11.0	A
	68	非常用ディーゼルポンプ室	RC	5.2	4.8	7.5		-0.4	7.1	A
	69	C.W.P制御盤室	S	4.0	33.1	7.5		29.1	36.6	A
	70	油倉庫	S	7.0	16.9	5.0		9.9	14.9	A
	71	配電設備室	RC	3.2	39.2	5.0		36.0	41.0	A
	72	水処理倉庫	S	2.8	40.8	7.5		38.0	45.5	A
	73	資料2号倉庫	S	5.6	18.0	5.0		12.4	17.4	A
	74	資料5号倉庫	S	5.5	16.8	8.0		11.3	19.3	A
	75	資料4号倉庫	S	7.2	5.6	8.0		-1.6	6.4	A
	76	擁壁②	RC	3.0	1.5	7.5		-1.5	6.0	A
	77	常設代替高圧電源装置	RC	－	－	－	耐震評価により損壊しないことを確認	－	－	A
第2，5図	78	排水処理建屋	RC	9.5	52.6	7.5	損壊による影響範囲をHとして評価	43.1	50.6	A
	79	送水ポンプ室	RC	2.8	28.0	7.0		25.2	32.2	A
	80	受水槽量水器小屋	S	2.5	40.1	7.5		37.6	45.1	A
	81	加圧式空気圧縮機小屋	S	3.5	57.5	7.0		54.0	61.0	A
	82	飲料水ポンプ室	S	2.5	42.8	7.0		40.3	47.3	A
第4，7図	83	空気圧縮機室	S	6.0	57.9	8.0		51.9	59.9	A
	84	ホットワークショップ	S	12.5	41.5	8.0		29.0	37.0	A
	85	屋外タンク上屋	S	6.5	39.0	8.0		32.5	40.5	A
	86	飲料水次亜鉛滅菌装置室	RC	3.3	55.6	7.5		52.3	59.8	A
第1図	87	緊急時対策所建屋	RC	－	－	－	耐震評価により損壊しないことを確認	－	－	A
	88	原子力館	RC	16.2	91.7	10.0	損壊による影響範囲をHとして評価	75.5	85.5	A
	89	正門監視所	RC	4.0	60.3	10.0		56.3	66.3	A
	90	放管センター	S	8.1	83.3	10.0		75.2	85.2	A

【判定】 ：「A」通行性に影響がない構造物（耐震性があるため損壊しない，がれきがルートに干渉しない，がれきがルートに干渉するがルートの必要幅が確保可能，設備の移設等の対策を実施）
：「B」がれき撤去によりアクセスルートを確保する構造物（車両通行のみの場合はがれき撤去不要な構造物も含む）
：「C」がれき発生時は別ルートを通行する構造物
：がれき発生時は重機によるがれき撤去は行わずに人力でがれき上にホース等を敷設する構造物

参照図面	No	アクセスルート周辺構造物	構造物諸元 高さ（m）H	構造物諸元 アクセスルート対象距離（m）L	アクセスルート幅（m）W	評価方法	影響評価 判定値：L－H 正の数：干渉なし	影響評価 判定値：L＋W－H 5m以上：影響なし	判定
第1図	A	275kV送電鉄塔（No.1）	57.5	56.0	10.0	損壊による影響範囲をHとして評価	-1.5	8.5	A
	B	154kV・66kV送電鉄塔（No.6）	42.9	－	－	送電線の影響を別途評価	－	－	－
	C	154kV・66kV送電鉄塔（No.7）	42.9	－	－		－	－	－
	D	154kV・66kV送電鉄塔（No.8）	32.6	32.3	8.0	損壊による影響範囲をHとして評価	-0.3	7.7	A
第2，5図	E	多目的タンク	13.3	10.8	7.5		-2.5	5.0	A
	F	純水貯蔵タンク	10.0	19.1	7.0		9.1	16.1	A
	G	ろ過水貯蔵タンク	13.3	25.6	7.0		12.4	19.4	A
	H	原水タンク	10.7	30.9	7.0		20.3	27.3	A
	I	溶融炉苛性ソーダタンク	2.1	0.0	9.0		-2.1	6.9	A※2
	J	溶融炉アンモニアタンク	1.4	0.0	9.0		-1.4	7.6	A※2
	K	主変圧器	10.0	12.3	10.0		2.3	12.3	A
	L	所内変圧器	5.4	25.3	10.0		19.9	29.9	A
	M	起動変圧器	7.4	28.9	7.5		21.5	29.0	A
	N	予備変圧器	6.0	6.0	5.0		0.0	5.1	A
	O	廃棄物処理建屋 換気空調ダクト	7.6	0.0	5.5		－	－	－
	P	主排気ダクト	26.4	0.0	5.0		－	－	C※1
	Q	排気筒	－	－	－	耐震評価により損壊しないことを確認	－	－	A
第4，7図	R	排気筒（東海発電所）	89.7	99.6	5.0	損壊による影響範囲をHとして評価	9.9	14.9	A
	S	No.1所内トランスN2タンク	2.7	12.5	7.5		9.8	17.3	A
	T	No.1主トランスN2タンク	4.5	11.9	7.5		7.4	14.9	A
	U	No.2主トランスN2タンク	4.5	11.9	7.5		7.4	14.9	A
	V	No.2所内トランスN2タンク	2.7	12.5	7.5		9.8	17.3	A
	W	600t純水タンク	9.0	27.5	7.5		18.5	26.0	A
第2，5図	X	154kV引留鉄構	16.50	4.0	7.0		-12.5	-5.5	A※2
	Y	崩壊土砂①	3.00	1.50	7.50	斜面高さの2倍を影響範囲として評価	-4.5	3.00※3	B
第4，7図	Z	崩壊土砂②	3.00	1.50	7.50		-4.5	3.00※3	C
第3，6図	AA	側方流動	－	91.0	7.50（西側）	水際線から100mの範囲を影響範囲として評価	-9.0	-1.5	C
				91.0	20.0（南西側※4）		-9.0	11.0	A

【判定】 ：「A」通行性に影響がない構造物（耐震性があるため損壊しない，がれきがルートに干渉しない，がれきがルートに干渉するがルートの必要幅が確保可能，設備の移設等の対策を実施）
：「B」がれき撤去によりアクセスルートを確保する構造物（車両通行のみの場合はがれき撤去不要な構造物も含む）
：「C」がれき発生時は別ルートを通行する構造物
：がれき発生時は重機によるがれき撤去は行わずに人力でがれき上にホース等を敷設する構造物

※1：当該構造物近傍のルートは，放水砲設置時にだけ使用するルートであるため，がれき影響がある場合はがれき影響がない箇所に放水砲を設置する
※2：対策を実施することで通行性を確保（第9，10図参照）　※3：L＋W－2H（斜面高さの2倍）で計算　※4：側方流動の影響評価範囲外（道路交差部）

＜見直し後＞

参照図面	No	アクセスルート周辺構造物	構造物諸元 建物構造	構造物諸元 高さ（m）H	構造物諸元 アクセスルート対象距離（m）L	アクセスルート幅（m）W	評価方法	影響評価 判定値：L－H 正の数：干渉なし	影響評価 判定値：L＋W－H 5m以上：影響なし	判定
第4，7図	60	保修機材倉庫	S	5.5	31.1	8.0	損壊による影響範囲をHとして評価	25.6	33.6	A
	61	ボーリングコア倉庫	S	3.3	72.3	10.0		69.0	79.0	A
	62	ランドリー建屋	RC	4.1	14.7	8.0		10.6	18.6	A
	63	再利用物品置場テントNo.4	－	6.4	8.1	8.0		1.7	9.7	A
	64	再利用物品置場テントNo.5	－	6.2	15.3	8.0		9.1	17.1	A
	65	再利用物品置場テントNo.6	－	6.3	22.6	8.0		16.3	24.3	A
	66	ボイラー上屋	S	6.9	37.4	8.0		30.5	38.5	A
	67	使用済燃料乾式貯蔵建屋	RC	22.0	23.0	10.0		1.0	11.0	A
	68	非常用ディーゼルポンプ室	RC	5.2	4.8	7.5		-0.4	7.1	A
	69	C.W.P制御盤室	S	4.0	33.1	7.5		29.1	36.6	A
	70	油倉庫	S	7.0	16.9	5.0		9.9	14.9	A
	71	配電設備室	RC	3.2	39.2	5.0		36.0	41.0	A
	72	水処理倉庫	S	2.8	40.8	7.5		38.0	45.5	A
	73	資料2号倉庫	S	5.6	18.0	5.0		12.4	17.4	A
	74	資料5号倉庫	S	5.5	16.8	8.0		11.3	19.3	A
	75	資料4号倉庫	S	7.2	5.6	8.0		-1.6	6.4	A
	76	擁壁②	RC	3.0	1.5	7.5		-1.5	6.0	A
	77	常設代替高圧電源装置	RC	－	－	－	耐震評価により損壊しないことを確認	－	－	A
第2，5図	78	排水処理建屋	RC	9.5	52.6	7.5	損壊による影響範囲をHとして評価	43.1	50.6	A
	79	送水ポンプ室	RC	2.8	28.0	7.0		25.2	32.2	A
	80	受水槽量水器小屋	S	2.5	40.1	7.5		37.6	45.1	A
	81	加圧式空気圧縮機小屋	S	3.5	57.5	7.0		54.0	61.0	A
	82	飲料水ポンプ室	S	2.5	42.8	7.0		40.3	47.3	A
第4，7図	83	空気圧縮機室	S	6.0	57.9	8.0		51.9	59.9	A
	84	ホットワークショップ	S	12.5	41.5	8.0		29.0	37.0	A
	85	屋外タンク上屋	S	6.5	39.0	8.0		32.5	40.5	A
	86	飲料水次亜鉛滅菌装置室	RC	3.3	55.6	7.5		52.3	59.8	A
第1図	87	緊急時対策所建屋	RC	－	－	－	耐震評価により損壊しないことを確認	－	－	A
	88	原子力館	RC	16.2	91.7	10.0	損壊による影響範囲をHとして評価	75.5	85.5	A
	89	正門監視所	RC	4.0	60.3	10.0		56.3	66.3	A
	90	放管センター	S	8.1	83.3	10.0		75.2	85.2	A

【判定】 ：「A」通行性に影響がない構造物（耐震性があるため損壊しない，がれきがルートに干渉しない，
がれきがルートに干渉するがルートの必要幅が確保可能，設備の移設等の対策を実施）
：「B」がれき撤去によりアクセスルートを確保する構造物（車両通行のみの場合はがれき撤去不要な構造物も含む）
構造物
わずに人力でがれき上に

⑥275kV送電鉄塔影響範囲
回避によるルート幅の
設計進捗反映

⑦154kV・66kV送電鉄塔（No.8）
東側ルート幅の設計進捗反映

⑧予備変圧器移設先の
設計進捗反映

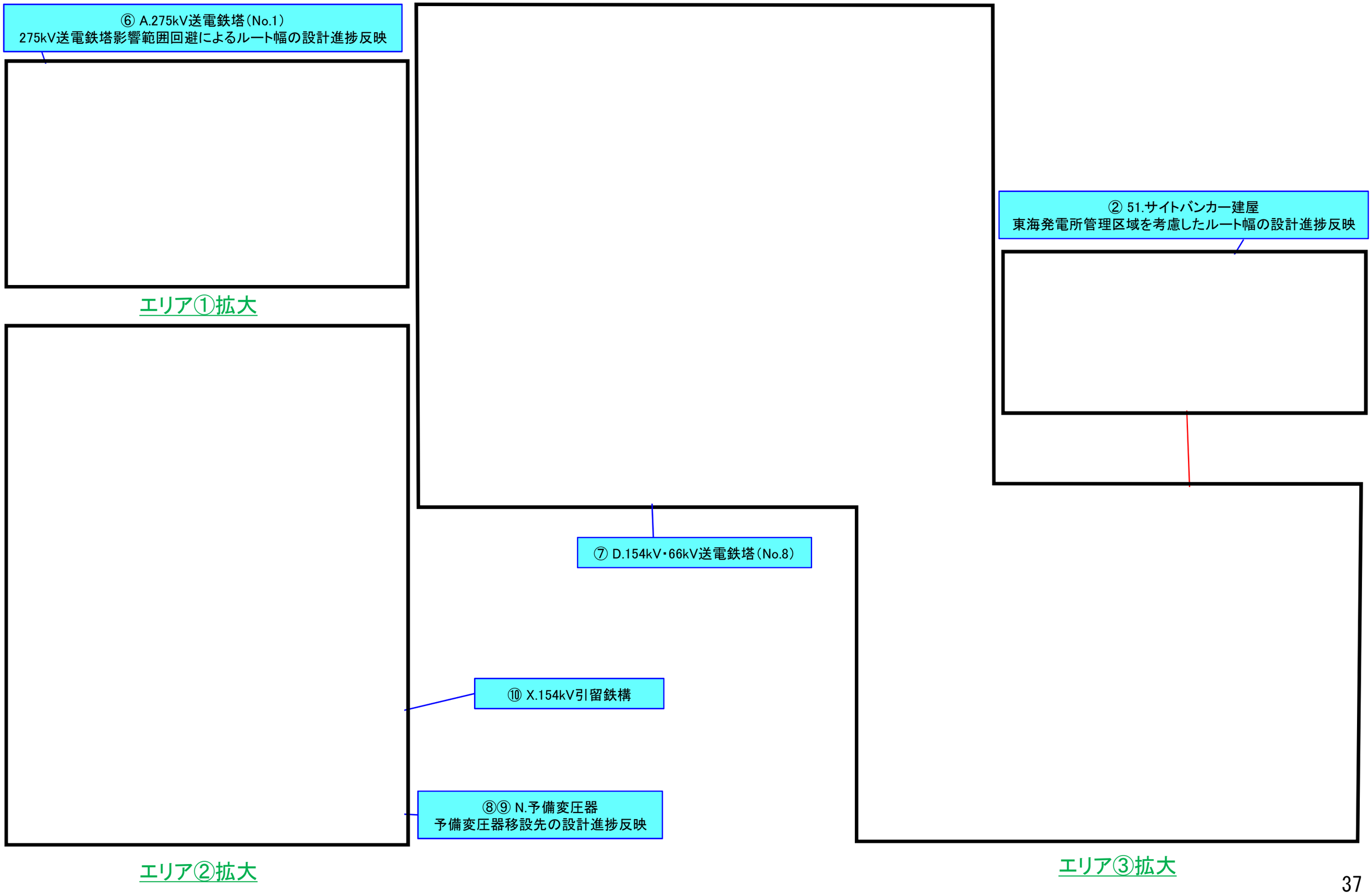
⑨予備変圧器南側ルート幅の
設計進捗反映

⑩154kV引留鉄構南側
ルートの設計進捗反映

参照図面	No	アクセスルート周辺構造物	構造物諸元 高さ（m）H	構造物諸元 アクセスルート対象距離（m）L	アクセスルート幅（m）W	評価方法	影響評価 判定値：L－H 正の数：干渉なし	影響評価 判定値：L＋W－H 5m以上：影響なし	判定
第1図	A	275kV送電鉄塔（No.1）	57.5	57.5	10.0	損壊による影響範囲をHとして評価	0.0	10.0	A
	B	154kV・66kV送電鉄塔（No.6）	42.9	－		送電線の影響を別途評価	－	－	－
	C	154kV・66kV送電鉄塔（No.7）	42.9	－			－	－	－
	D	154kV・66kV送電鉄塔（No.8）	32.6	32.3	7.0	損壊による影響範囲をHとして評価	-0.3	6.7	A
第2，5図	E	多目的タンク	13.3	10.8	7.5		-2.5	5.0	A
	F	純水貯蔵タンク			7.0		9.1	16.1	A
	G	ろ過水貯蔵タンク			7.0		12.4	19.4	A
	H	原水タンク			7.0		20.3	27.3	A
	I	溶融炉苛性ソーダタンク			9.0		-2.1	6.9	A※2
	J	溶融炉アンモニアタンク			9.0		-1.4	7.6	A※2
	K	主変圧器			10.0		2.3	12.3	A
	L	所内変圧器	5.4	25.3	10.0		19.9	29.9	A
	M	起動変圧器	7.4	28.9	7.5		21.5	29.0	A
	N	予備変圧器	6.0	7.4	7.0		1.5	8.5	A
	O	廃棄物処理建屋 換気空調ダクト	7.6	0.0	5.5		－	－	－
	P	主排気ダクト	26.4	0.0	5.0		－	－	C※1
	Q	排気筒	－	－					A
第4，7図	R	排気筒（東海発電所）							A
	S	No.1所内トランスN2タンク							A
	T	No.1主トランスN2タンク							A
	U	No.2主トランスN2タンク							A
	V	No.2所内トランスN2タンク							A
	W	600t純水タンク		27.5	7.5		18.5	26.0	A
第2，5図	X	154kV引留鉄構	16.50	2.3	7.0		-14.2	-7.2	A※2
	Y	崩壊土砂①	3.00	1.50	7.50	斜面高さの2倍を影響範囲として評価	-4.5	3.00※3	B
第4，7図	Z	崩壊土砂②	3.00	1.50	7.50		-4.5	3.00※3	C
第3，6図	AA	側方流動	－	91.0	7.50（西側）	水際線から100mの範囲を影響範囲として評価	-9.0	-1.5	C
				1.0	20.0（南西側※4）		-9.0	11.0	A

【判
ため損壊しない，がれきがルートに干渉しない，
トに干渉するがルートの必要幅が確保可能，設備の移設等の対策を実施）
る構造物（車両通行のみの場合はがれき撤去不要な構造物も含む）
：がれき発生時は重機によるがれき撤去は行わずに人力でがれき上にホース等を敷設する構造物

※1：当該構造物近傍のルートは，放水砲設置時にだけ使用するルートであるため，がれき影響がある場合はがれき影響がない箇所に放水砲を設置する
※2：対策を実施することで通行性を確保（第9，10図参照）　※3：L＋W－2H（斜面高さの2倍）で計算　※4：側方流動の影響評価範囲外（道路交差部）


⑥ A.275kV送電鉄塔（No.1）
275kV送電鉄塔影響範囲回避によるルート幅の設計進捗反映
エリア①拡大
② 51.サイトバンカー建屋
東海発電所管理区域を考慮したルート幅の設計進捗反映
⑦ D.154kV・66kV送電鉄塔（No.8）
⑩ X.154kV引留鉄構
⑧⑨ N.予備変圧器
予備変圧器移設先の設計進捗反映
エリア②拡大
エリア③拡大

【参考】

アクセスルートの沈下量の評価（地山と埋戻部の境界：建屋）の適正化に係る評価結果一覧

No.	名　　称	路 面 高	基礎下端	地下水位	掘削形式	アクセスルートへの影響の有無		埋戻部の沈下量（詳細評価要否）		詳細評価結果（対策の要否）		対策方針	備考
1	機械工作室用ボンベ庫	－	－	－	－	－	無						
2	監視所	－	－	－	－	－	無						
3	消防自動車車庫	－	－	－	－	－	無						
4	H2O2ボンベ庫	－	－	－	－	－	無						
5	機械工作室	－	○	－	－	－	無						
6	屋内開閉所	－	○	－	－	－	無						
7	パトロール車車庫	－	－	－	－	－	無						
8	H2CO2ガスボンベ貯蔵庫	－	－	－	－	－	無						
9	主発電機用ガスボンベ庫	－	－	－	－	－	無						
10	タービン建屋	－	－	－	－	■	無　→　有	■	（追加）　要	■	（追加）　否		
11	原子炉建屋	－	－	－	－	－	有	－	要	－	否		
12	サービス建屋	－	○	－	－	－	無						
13	水電解装置建屋	－	○	－	－	－	無						
14	ベーラー建屋	－	○	－	－	－	無						
15	サンプルタンク室（R／W）	－	○	－	－	－	無						
16	ヘパフィルター室	－	○	－	－	－	無						
17	マイクロ無線機室	－	－	－	－	－	無						
18	モルタル混練建屋	－	－	－	－	－	無						
19	増強廃棄物処理建屋	－	－	－	－	－	有	－	要	－	否		
20	排気筒モニター室	－	－	－	－	－	無						
21	機器搬入口建屋	－	－	－	－	－	無						
22	地下排水上屋（東西）	－	－	－	－	－	無						
23	CO2ボンベ室	－	－	－	－	－	無						
24	チェックポイント	－	－	－	－	－	無						
25	サービス建屋～チェックポイント歩道上屋	－	－	－	－	－	無						
26	サービス建屋ボンベ室	－	－	－	－	－	無						
27	所内ボイラー用ボンベ庫	－	－	－	－	－	無						
28	擁壁①	－	－	－	－	－	無						
29	別館	■	■	■	－	－	無						
30	PR第二電気室	■	■	■	－	－	無						
31	給水処理建屋	■	■	■	－	－	無						
32	固体廃棄物貯蔵庫A棟	－	－	－	－	－	有	－	否				
33	固体廃棄物貯蔵庫B棟	－	○	－	－	－	有	－	否				
34	給水加熱器保管庫	－	－	－	－	－	無						
35	取水口電気室	■	■	■	－	－	無						
36	屋外第二電気室	－	○	－	－	○	無　→　有	○	（追加）　否				
37	補修装置等保管倉庫	－	○	－	－	－	無						
38	プロパンガスボンベ室	－	－	－	－	－	無						
39	機材倉庫	－	－	－	－	－	無						
40	No.1保修用油倉庫	－	－	－	－	－	無						
41	No.2保修用油倉庫	－	－	－	－	－	無						
42	固体廃棄物作業建屋	－	○	－	－	－	有	－	否				
43	緊急時対策室建屋	－	○	－	－	－	有	－	否				
44	事務本館	－	○	－	－	－	無						
45	原子炉建屋（東海発電所）	－	○	－	－	－	無						
46	タービンホール（東海発電所）	－	○	－	－	－	無						
47	サービス建屋（東海発電所）	－	－	－	－	－	無						
48	燃料倉庫	－	－	－	－	－	無						
49	工具倉庫	－	－	－	－	－	無						
50	固化処理建屋	－	○	－	－	－	無						
51	サイトバンカー建屋	－	○	－	－	－	有	－	否				
52	放射性廃液処理施設	－	○	－	－	－	無						
53	地下タンク上屋（東）	－	○	○	○	－	無						
54	地下タンク上屋（西）	－	－	－	－	－	無						
55	使用済燃料貯蔵施設	－	－	－	－	－	無						
56	Hバンカー	－	○	－	－	－	無						
57	黒鉛スリーブ貯蔵庫	－	○	－	－	－	無						
58	燃料スプリッタ貯蔵庫	－	○	－	－	－	無						
59	低放射性固体廃棄物詰ドラム貯蔵庫	－	－	－	－	－	無						
60	保修機材倉庫	－	○	－	－	－	無						
61	ボーリングコア倉庫	－	－	－	－	－	無						
62	ランドリー建屋	－	－	－	－	－	無						
63	再利用物品置場テントNo.4	－	－	－	－	－	無						
64	再利用物品置場テントNo.5	－	－	－	－	－	無						
65	再利用物品置場テントNo.6	－	－	－	－	－	無						
66	ボイラー上屋	－	－	－	－	－	無						
67	使用済燃料乾式貯蔵建屋	－	○	－	－	－	無						
68	非常用ディーゼルポンプ室	－	○	○	○	－	無						
69	C.W.P制御盤室	－	－	－	－	－	無						
70	油倉庫	－	－	－	－	－	無						
71	配電設備室	－	－	－	－	－	無						
72	水処理倉庫	－	－	－	－	－	無						
73	資料2号倉庫	－	－	－	－	－	無						
74	資料5号倉庫	－	－	－	－	－	無						
75	資料4号倉庫	－	－	－	－	－	無						
76	擁壁②	－	－	－	－	－	無						
77	常設代替高圧電源装置	■	■	■	○	○	－						新設施設※
78	排水処理建屋	■	■	■	－	－	無						
79	送水ポンプ室	■	■	■	－	－	無						
80	受水槽量水器小屋	■	■	■	－	－	無						
81	加圧式空気圧縮機小屋	■	■	■	－	－	無						
82	飲料水ポンプ室	■	■	■	－	－	無						
83	空気圧縮機室	－	－	－	－	－	無						
84	ホットワークショップ	－	○	－	－	－	無						
85	屋外タンク上屋	－	－	－	－	－	無						
86	飲料水次亜鉛滅菌装置室	－	－	－	－	－	無						
87	緊急時対策所建屋	－	○	－	－	○	－						新設施設※
88	原子力館	－	○	－	－	－	無						
89	正門監視所	－	－	－	－	－	無						
90	放管センター	－	○	－	－	－	無						
A	275kV送電鉄塔（No.1）	－	○	－	－	－	無						
B	154kV・66kV送電鉄塔（No.6）	■	■	■	－	－	無						
C	154kV・66kV送電鉄塔（No.7）	■	■	■	－	－	無						
D	154kV・66kV送電鉄塔（No.8）	■	■	■	－	－	無						
E	多目的タンク	■	■	■	－	－	無						
F	純水貯蔵タンク	■	■	■	－	－	無						
G	ろ過水貯蔵タンク	■	■	■	－	－	無						
H	原水タンク	■	■	■	－	－	無						
I	溶融炉苛性ソーダタンク	－	－	－	－	－	無						
J	溶融炉アンモニアタンク	－	－	－	－	－	無						
K	主要変圧器	－	○	－	－	－	無						
L	所内変圧器	－	－	－	－	－	無						
M	起動変圧器	－	○	－	－	－	無						
N	予備変圧器	－	○	－	－	－	無						
O	廃棄物処理建屋 換気空調ダクト	○	○	○	○	－	無						
P	主排気ダクト	○	○	○	○	○	（追加）　無						
Q	排気筒	－	－	－	－	－	無						
R	排気筒（東海発電所）	○	○	○	○	－	無						
S	No.1所内トランスN2タンク	－	－	－	－	－	無						
T	No.1主トランスN2タンク	－	－	－	－	－	無						
U	No.2主トランスN2タンク	－	－	－	－	－	無						
V	No.2所内トランスN2タンク	－	－	－	－	－	無						
W	600t純水タンク	－	－	－	－	－	無						
X	154kV引留鉄構	○	○	○	○	○	（追加）　無						

■：ＴＡＦ誤りの水平展開により判明した適正化する箇所
○：設計の進捗に伴い変更する箇所
－：変更なし
：沈下量が15cmを超える箇所
※：新規制対応のための新設施設であり，設計において反映する。